

令和6年度第1回 川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会

日 時：令和6年6月28日（金）午後2時～4時

会 場：宮前市民館 第4会議室（4階）

1 宮前市民館長あいさつ

2 委嘱式

3 議事

（1）川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会について

（2）正副部会長の互選について

（3）報告事項

ア 令和6年度予算及び事業概要について

- ・宮前市民館・菅生分館の管理運営予算について

- ・宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業予算及び実施計画について

（4）協議事項

ア 今期の取組について

（3）その他

ア 第2回宮前市民館専門部会の開催日程について

候補日	9月24日（火）午前10時～	9月24日（火）午後2時～
	9月25日（水）午前10時～	9月25日（水）午後2時～
	9月27日（金）午後2時～	

イ その他

令和 6 年度第 1 回 川崎市社会教育委員会議
宮前市民館専門部会 配付資料一覧

令和 6・7 年度 川崎市社会教育委員会議宮前市民館部会 委員名簿

資料 1 川崎市社会教育委員会議「宮前市民館専門部会」について

資料 2 令和 4・5 年度 宮前市民館専門部会研究報告書

「人と人を繋ぐ市民館であるためにⅡ」について

資料 3 令和 6 年度 補修工事予定一覧

資料 4 令和 6 年度 宮前市民館 社会教育振興事業実施状況

資料 5 令和 6 年度 宮前市民館菅生分館 社会教育振興事業実施状況

資料 6 「教育文化会館・市民館専門部会 研究課題（活動報告書より）」

(参考)

●宮前市民館だより 第 2 5 4 号（4 月 1 日発行）、第 2 5 5 号（6 月 1 日発行）

●菅生分館だより 第 1 8 3 号（4 月 1 日発行）、第 1 8 4 号（5 月 1 日発行）、
第 1 8 5 号（7 月 1 日発行）

●宮前市民館事業チラシ

- 「宮前日本語学級」 識字学習活動
- 「趣味のスマホと園芸～花を愛で、スマホを学ぶ～」 シニアの社会参加支援事業
- 「スマホ相談会 4 月・5 月・6 月・7 月」 現代的課題学習事業
- 「うたごえ市民館」 市民自主企画事業
- 「宮前親子学級～あそんで 学んで 育ちあおう～」 家庭・地域教育学級
- 「みやまえ子育てフェスタを一緒に盛り上げよう！」 課題別連携事業
- 「子フェスタ クリエイティブ DAY・子フェスタ広場 2 DAYS」 課題別連携事業
- 「夏休み子どもあそびランド 2024 あそびの達人募集！」
- 「夏休みこどもあそびランド 2024 サポーター募集！」
- 「夏休みこどもあそびランド 2024 あそびランドをもっと楽しむサポーター養成講座」
多様な主体が参画する子どもあそびランド事業

●菅生分館事業チラシ

- 「スマホボランティア養成講座」 シニアの社会参加支援事業
- 「保育ボランティア入門講座」 市民エンパワーメント研修
- 「菅生分館で「マナビ」のタネをみつけよう」 青少年教室事業
- 「児童室であそぼう Day」はじまります！ 子育て支援啓発事業
- 「おしゃべりサロンすがお これからの予定」（4 月～6 月） 課題別連携事業
- 「おしゃべりサロンすがお これからの予定」（7 月～9 月） 課題別連携事業

●令和 5 年度 教育文化会館・市民館活動報告書

●生涯学習情報誌「ステージアップ」 Vol. 2 4 9

令和6・7年度川崎市社会教育委員会議宮前市民館部会 委員名簿

(任期 令和6年5月1日から令和8年4月30日)

選出区分	氏 名	現 職
1号 (学校長)	ながわ 中川 まさひこ 正彦	川崎市立富士見台小学校 校長
2号 (社会教育関係団体)	わたなべ 渡辺 みよこ 美代子	宮前区文化協会 会計
	しらたけ 白武 はつえ 初江	宮前第6地区民生委員児童委員協議会 会長
	やまもと 山本 たみお 太三雄	菅生分館利用者懇談会
	たかく 高久 みのる 實	宮前区全町内・自治会連合会 理事
3号 (市民委員)	ならさき 檜崎 みつお 光雄	市民委員
4号 (学識経験者)	◎ かわにし 川西 かずこ 和子	調査モデレーター・分析・各種司会
5号 (家庭教育)	みやした 宮下 ひろし 大志	宮前区PTA協議会 副会長

◎部会長 ○副部会長

(令和6年5月現在)

川崎市社会教育委員会「宮前市民館専門部会」について

○専門部会の概要

専門部会の前身は1988（昭和63）年度から各市民館別に設置された「運営審議会」です。運営審議会は市民館の円滑な運営を目的とし、地域の諸問題に触れ、住民の学習要求に即応した活動及び運営がさらに豊かになることを狙いに開催されてきました。

2016（平成28）年度から制度上の理由から、「運営審議会」から「川崎市社会教育委員会専門部会」となりました。名称は変更されましたが、担う役割が変わったものではありません。

宮前区には宮前市民館専門部会と有馬・野川生涯学習支援施設（通称：アリーノ）専門部会の2つの専門部会があります。

委員の任期については、2年とし、年4回（アリーノは年3回）の会議が開催されています。開催月は、概ね6月、9月、12月、2月、（アリーノは7月、12月、3月）となっています。

【専門部会における主な議題】

- ・市民館・分館における事業についての調査・審議
- ・課題研究
- ・次年度の「市民自主学級・市民自主企画事業」選考（2月）

○関連法令等

【社会教育法】

（審議会等への諮問）

第13条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し、補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあっては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和23年法律第120号）第8条に規定する機関をいう。第51条第3項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあっては教育委員会が社会教育委員の会議（社会教育委員が置かれていない場合には、条例で定めるところにより社会教育に係る補助金の交付に関する事項を調査審議する審議会その他の合議制の機関）の意見を聴いて行わなければならない。

（社会教育委員の構成）

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

（社会教育委員の委嘱の基準等）

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他の社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

（社会教育委員の職務）

第17条 社会教育委員は、社会教育に関して教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

（1）社会教育に関する諸計画（※1）を立案すること。

（2）定時または臨時会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。

（3）前2号の職務を行うために必要な研究調査（※2）を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

※1 諸計画とは、自治体の将来展望・目標、基本方向、基本施策等に関する計画を指しています。川崎市では、教育施策を全体の振興計画である「かわさき教育プラン」の中で生涯学習分野の施策等を含む計画を策定しています。

※2 「研究調査」については、自主的な研究だけでなく、神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会・地区研究会等を活用しています。

【川崎市社会教育委員会会議規則】

(趣旨)

第1条 この規則は、川崎市社会教育委員条例(昭和24年川崎市条例第34条。(以下「会議」という。))の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第1条の2 条例第2条第2項の委員の選出区分は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 市内に設置された学校の長
- (2) 市内の社会教育関係団体等から推薦された者
- (3) 市内在住の社会教育に関する経験を有する市民
- (4) 学識経験者
- (5) 市内の家庭教育の向上に資する活動を行う者

(専門部会)

第6条 会議は教育文化会館、市民館、及び、日本民家園並びに青少年の家、少年自然の家及び黒川青少年野外活動センター(以下「青少年教育施設」という。)等の社会教育施設の円滑な運営を図るため、別表の専門部会の欄に掲げる専門部会を置く。

2 専門部会は、臨時委員で構成し、教育委員会が委嘱する。

3 前項の臨時委員は、その者の委嘱に係る専門部会の審議又は調査が終了したときは解職されるものとする。

4 専門部会は、臨時委員の互選による部会長及び副部会長を各1名置く。

5 専門部会は、部会長がこれを招集し、その議長となる。ただし、部会長が開催の必要がないと認めるときは、この限りではない。

6 専門部会は、所属する臨時委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

7 専門部会の議事は、出席した臨時委員の過半数で決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。

8 専門部会の審議又は調査が終了したときは、当該審議又は調査の結果を会議に報告し承認を得なければならない。

9 部会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めその説明を又は意見を聴くことができる。

別表6(第6条関係) 一部抜粋

専門部会	所掌事務	定数	委員の構成
宮前市民館専門部会	館における各種の事業の企画実施について調査審議すること。	10人以内	(1) 区内に設置された学校の長 (2) 区内の社会教育関係団体等から推薦された者 (3) 区内在住の社会教育に関する経験を有する市民 (4) 学識経験者 (5) 区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者

令和4・5年度 川崎市社会教育委員会議

宮前市民館専門部会 研究報告書

「人と人を繋ぐ市民館であるために II」

—市民館と市民が情報共有に向けて—

令和6年3月

川崎市社会教育会議 宮前市民館専門部会

目 次

1. はじめに	・・・P 1
2. テーマ「人と人を繋ぐ市民館であるために」について	・・・P 2
3. 現状の市民館情報と広報について	・・・P 6
①市民館だよりの記事・市民館活動企画の検証	
②市民の広報の評価（市民館だよりの現状評価インタビュー）	
4. 市民館だよりの改訂・評価	・・・P 1 6
①市民館だよりの構成案	
②市民館だよりの改訂評価（アンケート	
5. 情報を届ける仕組みについて	・・・P 2 2
6. おわりに 今後への提案	・・・P 2 5
添付資料	
・ 宮前市民館専門部会 会議等日程	・・・P 3 0
・ 宮前市民館専門部会 委員名簿	・・・P 3 1
・ 菅生分館だより	

1. はじめに

令和4年3月、コロナは完全には終息したとは言えないものの、市民館での活動は、再開を待っていた市民によって徐々に復活の兆しを見せてきた。

今期の専門部会はほとんどの委員が新たに選出されたことにより、どのような研究課題を設定するか、市民館の課題が何かを共有するところから協議を始めたが、新委員の多くは、既に市民館での活動を経験しており、これまでの市民館とのかかわりの中で広報活動の充実を望む意見を持っていた。そこで令和2・3年度の「人と人を繋ぐ市民館であるために」のテーマを継承し、そのための実効的な施策を実施することを目標とした。

本会議だけでなくプロジェクト会議も開催して、市民へのインタビュー・アンケートなどをもとに「市民館だより」の改訂を実施することとした。

全員が意識したのは、市民館は「用が無くても気軽に一人でも利用でき、市民館に行けばなにかしら得るものがある楽しみな交流の場」というものであり、これをイメージとし、数年先の鷺沼移転を見据えて協議した。

本書はその記録である。

2. テーマ「人と人を繋ぐ市民館であるために」について

★まず、今期委員が市民館にどのような印象や要望を持っているか聴取したところ、情報発信や今期の研究課題のテーマについての意見は次のとおりであった。

―前期の活動報告書に目を通した。この提言を具体的に進めることが大切ではないか。宮前市民館のホームページには「宮前市民館は社会教育法に基づき市民のみなさんの自主的な学習・文化活動を支援する生涯学習施設です。学習発表のための施設提供や、各種学級講座を開設しています。また、学習サークル情報の提供、教材・機材の貸出も行っています。」とある。川崎市でも、市民館の本来の目的である地域における生涯学習の拠点、市民の学びを通じた出会いを促進し、より豊かな活気ある地域社会を目指すと同っていた。しかし、市民館だよりやホームページを見ている人はどのくらいいるのだろうか。一般市民は、市民館は大ホールを持っている貸室機能のイメージだ。自分もそう思っていたが実際には違う。イベントや各種学級、講座をもう少しわかりやすく伝え魅力ある情報発信を行うことで、新たな市民を呼ぶことに繋がり、貸室機能だけでなく市民館を出会いや交流の拠点にすることが可能になる。市民館のイベントに行ってみよう、学級や講座を覗いてみよう、区役所の帰りに寄ってみようと、気軽に立ち寄れるようになったらいいのではないか。広報活動は、情報発信が大切だ。イベントや講座の広報を整理する、団体募集の掲示板を工夫するなど、情報発信の仕方を見直すべきだと思った。

―2年間宮前市民館専門部会に参加して様々な情報を得た。勉強になり、後日寺子屋や赤ちゃんサロンに情報を生かした。ただ、思うように伝わらないこともあり、広報活動の充実が必要だと感じている。良い講座もあり、良いグループもあるが、もう少し繋がりが増えていくことで、宮前市民館の活用機会も増えると思う。

―前期の報告書、「おわりに」の部分で「関連事業やターゲットごとのひとまとまりの広報の仕方も検討し、」と記載しているので、今期は具体的に進めていくことはどうだろうか。関連団体との繋がりによって広報活動が違った形で見えてくると思う。デジタルだけではなく紙媒体の使用は、スマホやパソコンを使用していない高齢者へのアクセスとして、民生委員の立場からも考えたい。今期は、前期の発展型として、結論を引き

継ぎ次にどう繋げていくかを考えたい。

―宮前区内の保育園幼稚園、小・中学校、高校との連携で、今まで、市民館で何が行われているか知らなかった人たちにPRするような行事を1年に1度でも構わないので、開催したい。例えば、市民館で地元の高齢者と小さい子どもたちが遊んだり、語り合ったり意見交換ができたりすると、今まで市民館を知らなかった人へ伝えられるのではないか。

―この専門部会で出た意見がどれほど活用されるのかも疑問だ。昨年度までの専門部会の活動自体、今知った次第だ。自治会連合会の会合で議題に上がっていなかったのも、一般の市民は専門部会の活動を知らないと思う。PRを含めてやり方を考え、前に進めたい。

―各出身母体に報告書を手渡しして頂くことも方法の一つであり、少しずつ手を伸ばしていけたらと思う。区役所を始めとして、委員の皆さんの出身母体やその他、地域の各団体や個人が連携して、市民館からの情報をどのように発信強化し、市民と共有できるかをテーマに据えても、話し合う事は沢山あると思う。

―様々な企画があるが区民に行き届かずもったいない。広報活動が重要で、人目につき魅力的にやっていることが伝わるようにしたい。川崎市や宮前区のホームページはわかりづらい。リンクを深く進まなくてもすぐにキャッチできるような、一般の人が入りやすい窓口をホームページにすることで、多くの人が恩恵にあずかることができる。

―デジタル化も含めPRの強化が大切だ。多くの素晴らしい企画があるのに知られていない。自分の周囲に確認したが、認識されていなかった。PRの方法を検討してみてもうだろうか。

―紙のチラシを手にしてくれる人が一部に限られていることが問題だ。例えば、LINEを利用して一度に大勢の人に情報を送り、反応があった人と情報交換をすることを様々な団体で使い始めている。検討してみてもうだろうか。

―紙媒体は有効な手段の一つだが、予算を考えなくてはいけない。比べてSNS等で発信の方が予算がかからずに済む。

―コロナ禍で集まれなくても講座を配信できるので、Wi-fiが使えないか。

★市民館が様々なイベントや企画を開催したり、川崎市社会教育委員会議宮前市民館専門部会を開催したりしていることも含めて、市民へ情報が行き渡っていないと感じており、一般市民へどのように情報共有するかが、非常に大きな問題になっている。情報共有するための情報発信の仕方として、どこが、どのように、どれだけするか、様々な方法論やデジタルの話が出た。

―「どこが」について、具体的には、各委員の出身母体と市民館がどのように繋がるか考えていきたい。もちろん、地域教育会議や寺子屋など、各委員が入っていないグループとの連携も考える必要がある。

―「どのように」について、紙媒体かデジタルか、手渡しかなどの検討が必要だ。手渡しに関しては、市民コンシェルジュの活動が相当する。市民コンシェルジュでは、手渡しすることで色々なところに散らばっている地域情報を一括に平場に並べて見えるようにしている。先行して活動している市民が、情報を紹介したりアンケートを取ったりマッチングしたりしている。市民コンシェルジュは現在、コロナ禍のため活動の場が制限されているが、本来なら、毎週活動したり開催されたイベントへ出席したりするなど、見える形の活動にするのが課題となる。

―「どれだけ配布するか」は、ピンポイントにターゲットを決め、集中して情報を提供する方法や、HPやSNSで星が降るように常に情報を提供する方法がある。

★PRは大切だが、最も大切なのは興味を持っている対象の人にどう届けるかである。単に大々的にPRすればいいのではなく、求めている人に届けられる方法を考えるべきではないかという指摘があった。

―ホームページも大切だが、そこへアクセスしなくてはならない。PTAでもホームページに力を入れているが、結局、紙で配った方があらゆる人に届き、必要としている人へも届くという感触もある。必要としている人に届けるためには、沢山発信するだけでなく、ターゲットを決めてどのように情報発信するかを考えた方がいいのではないか。

★それ以外に指定管理者制度への意見が出たが、移行までには時間があるため、今期は見送った。

—指定管理者制度を導入することについて、その理由を精査し、市民の意見を反映して個人の尊厳を大切にしてほしい。PDCA（Plan Do Check Action）の中のCAの部分をやっていかないとけない。

指定管理者の選定や仕様書などから事例を研究したい。すでに指定管理を行っているアリーノなどの事例を研究し、宮前市民館も移転後の指定管理者に対し、何をしていかなくてはいけなさを研究材料にし、自由に投稿できる意見箱などを置き、まだ吸い上げられていない人の声を募集し、最終的には、宮前区をどんな街にしたいかを研究していきたい。

★更に学校教育と社会教育を上手く繋ぐ施策についての意見も出された。

—一般の市民に様々な講座を体験して頂き、人と人とが繋がる市民館になることが大切。

—社会教育とあるが、子どもたちが学校を卒業するまえに社会教育を広めるための講座を受けた方がいい。広く社会教育の基本的な部分を知ってほしい。

—地域教育会議は小中学生も関わっているので、情報が伝わるといい。自分が関わっている小中学校には、宮前市民館の情報は回ってこなかった。子どもたちに参加してもらうためにも、情報を発信し広めることが必要だ。

—新成人に市民館だより配布することもいい。また市民館だよりに「市民館はこんな場所だ」「社会教育とは」という根本を毎回掲載してもいい。本質的な事はいつも目に触れるところに出しておくことも必要だ。

★今期の研究テーマは、「市民館が市民に向けて情報共有するために、どのように情報発信するか」に決定した。「いかにして市民館活動を地域の市民に周知させるか」という広報のあり方を具体策として出すことになった。

3. 現状の市民館情報と広報について

① 市民館だよりの記事・市民館活動企画の検証

★今まで市民館はたくさんの講座や活動を実施してきた。それら市民館から発信されている活動企画を年代別・カテゴリー別に分類し、対象年代と企画の各カテゴリーの分布から、どこが埋まっていてどこが手薄なのかを検証することとした。市民館活動報告をもとに分類作業をした。

各カテゴリーは次のとおり。

Ⅱ 社会参加・共生

Ⅲ 市民自治 平和人権

Ⅳ 市民学習 活動活性化

Ⅴ 市民・行政協働ネットワーク事業

Ⅵ～現代的課題など

分布を見ながら、手薄な部分があれば、今後の市民館活動の課題として提言していくこととした。

市民館活動報告

Ⅴ 市民行政協働ネットワーク Ⅵ 現代的課題対応学習 Ⅶ 学習環境整備事業

項目	高校生以下	大学生	20-30代	40-50代	60代以上	
子育て	○		○	○		親子学級・親子講座・PTA・寺子屋
子供遊び	○	○	○	○	○	子育てフェスタ・子供あそびランド
	○		○	○	○	おもちゃ病院・バルーン・ボードゲーム・親子で自然エネルギー
			○	○	○	子しれん・PTA協議会
地域教育			○	○	○	地域教育会議・地域教育コーディネーター・識字日本語学習 家庭教育推進連絡会・PTA活動学級
地域文化	○	○	○	○	○	文化協会・IAM・うたごえ楽座
地域交流	○			○		自分マップ作り・シニアの社会参加（文章）・生涯学習交流会
日本語		○	○	○	○	日本語教室・日本語講師
地域活動				○	○	サークル連絡会
IT		○	○	○	○	IT関連支援講座
高齢者介護				○	○	高齢者介護講座
地域人材育成				○	○	地域人材育成講座・社会人学級（20～30代）・識字ボランティア 保育ボランティア・スマホボランティア・寺子屋ボランティア
地域歴史				○	○	地域歴史講座・シニア学級新聞作り・岡前を知って歩こう・我が故郷
弱者の権利						障がい者社会参加・障がい者ボランティア研修・セクシャルマイノリティー
平和・人権						水と人権・家庭科
防災			○	○	○	はじめよう・備災の第一

★企画事業は、年ごとに重点施策を中心に万遍なく実施されている。特にスマホの使い方など現代的課題などは回数多く企画されている。

★一昨年の市民館だより（6回分）に掲載された活動企画をジャンル別に分類する

と、多い順に子育て・シニア・人権関係・防災・行事・歴史・講師募集などとなっている。事業や企画自体は、各世代に様々なカテゴリーが展開されているが、これほど実施されているのを参加していない市民はほとんど知らないのが現状である。

それは、広報の仕方が情報を受け取りたい市民とマッチしていないからだと思われる。

市民館だよりの記事（項目）

	12月号		11月		10月		9月		7月		5月		4月	
項目	有無		有無		有無		有無		有無		有無		有無	
子育て					○		○						○	
子供教育	○				○				○	夏休み			○	メンバー募集
子供遊び									○	親子教室	○	もちや病院も		
人権	○				○									
シニア	○				○		○	スマホ	○	スマホ			○	
行事・予定	○				○									
歴史	○						○		○					
防災	○													
講師募集							○							
地元遊び									○					
お知らせ											○			
自主企画（お知らせ）											○	委員募集も		
ボランティア（障害者向け）													○	

★市民館からの情報の出し方として、情報を受ける立場からすぐに検索できる仕組みが重要である。シニアはスマホなどの操作が苦手なので、対象に合った方法を考えなくてはならない。ネットか、紙か、あるいはどこからその情報を渡すかも大事。例えばシニアなら地域包括支援センターなどの関係団体から、妊娠中や出産後の対象には保健師さんなどの保健所関係などから情報が渡されると伝わりやすい。ただ見ているだけだと流してしまう。

★情報の取り方は人によってばらつきがある。特にデジタルは。若い年代をとっても、インスタグラムとか情報はありすぎているが、しっかり見る人もいる一方、流している人もいる。ずっとスクロールしていると、ママはいつもスマホを見ているとなる。

それに対し紙の一覧性は有効。何もかもが集約されているからいいわけでもない。

ーPTA の情報も WEB で流したが、紙で広報したほうが応募が多かった例もある。紙で見えて QR コードで深く見る。スマホで検索する人は情報を取りに行けるが、孤立している人に届けられたら良い。

② 市民の広報の評価（インタビュー）

★これまでの広報について具体的にどのような課題があるか探った。

§紙媒体の広報については、市民館だよりの改善（文字色の変更、講座などの受付方法の変更、QR コードの掲載など）が既に挙がっていたが、市民館だよりが市民館の企画や事業情報を伝える一番メインの媒体なので、市民館だよりの現状の評価を詳しくとことにした。

まず、最初に各区の市民館だよりを比較検討した。

ー各館の市民館だよりは印象が異なっている。麻生区は進歩的。枠のあるレイアウトは見やすく、QR コードもイラストも一番たくさんついている。反対に教育文化会館は字が多く、昔の文書イメージで読む気がしない。

ー宮前区の市民館だよりは、世代別に色々な講座や催しが行われていることがわかるが、QR コードが記載されていない記事がある、文字色（青色）が見づらいなど改善すべき点も多い。QR コードの掲載などすぐに対応できるものは進めていってほしい。また、来館や FAX による申し込みを求めるものがあるが、時代に合わない。メールなどで対応すべき。

ー市民館だよりのトップページに目次のような表紙を持ってくると、全部のページをめくらなくても、QR コードから自分の読みたいページにスキップできる。年代別から入る方が入りやすい。自分の興味ある所を追って読み進むので、市民館だよりを捨てにくい。HP のトップページも同様にするとよい。

★次に「市民館だより」やいろいろな企画のチラシなどを提示し、その印象や改善点を一般市民に聴取した。今回の対象者は、子育て中の若い保護者（公園で外遊びをしている、親子学級の母親）4名、みやまえ子育てフェスタ企画委員、菅生在住のPTA協議会の委員。

★子育て中の市民（20代～50代）の中でも、情報への態度（接し方・取り方）は異なっている。第一子の子育ての親が最も情報を必要としており、子どもの成長とともに市民館からの子育て情報からは遠ざかっていく。市民館の名称については、若年層には不評であったが、そのほかには、慣れからなじみがあるようだ。ただ情報の取り方はQRコードの多用など共通である。市民館だよりについては、若年層には読みづらい欲しい情報が採りづらいと低評価であった。

子育て中の若い保護者（公園で外遊びをしている、親子学級の母親）4名の発言

「市民館だより」について

- －文字が多いので、読む気にならない。もっと大きな字やポップなイラスト付きで楽しいロゴの方が読みやすい。
- －白と青の二色は見づらい。
- －「防災」は興味がある。
- －「高齢者」というタイトルだけで、自分は対象外と判断しオミットする。高齢者は市民館の講座に行けるのかな、たいへんそう。
- －「保育」「1歳半以上」とかの文言がタイトル近くにあると目がいく。

「市民館」という呼び名について

- －固い、古い、役所っぽい、川崎に来てから市民館と分かった。（公民館になじみ）
- －横文字・カタカナの方が読みやすい、スーと入る。（例：コミュニティセンター）

「市民館だより」との接触

- －マンションには回覧していない、宮崎第一公園の地域子育て支援センターに置いてある。

市民館との関わりについて

- －市民館には、2階の図書館へ絵本を借りに行き、4階の親子学級に行くくらい。
- －区役所に近いイメージ（手続きに行くところ）で、いつも行くようなイメージではない。

普段の情報の取り方

- －宮崎第一公園でチラシをもらい、勧められて親子学級に参加。
- －「宮前区」「子育て」「遊べるところ」のワードをネットで調べる。
- －チラシは、その日が来るまで取っておく、写メして保存したりカレンダーに入れる、
気になるとネットで詳しく調べる。
- －役所のSNSは見ない。
- －紙チラシは手に取りやすく、見出しが気になると見る。
「CAFE TALK」のチラシは、要点のみ（テーマ・何をするのか？・曜日）で
わかりやすい。細かいことはネットで。
- －妊娠中・出産後に保健師さんから沢山チラシ情報をもらう。一応目を通すが、保健師
さんのアナウンスがあった方が印象に残る。
- －病院や保健所に行く時、チラシをまとめて渡してくれたら見る。
- －公園や道にある町会の掲示板もお祭り情報など見る。
- －何かの企画イベントに行ってみて良かったら、口コミ流す。友達によかったよ、一緒
に行こうと情報を回す。（あくまで自由に）

要望

- －「保育カフェ」があるとありがたい。保育付きは魅力的で座ってコーヒーを飲みたい。

みやまえ子育てフェスタ企画委員会の委員の発言

「市民館だより」について

- －「こういうもんだ」と見慣れている。
- －「子フェスタ」の掲載を探すので、全部見る。
- －「子フェスタ」は川崎市の課題別事業なので企画委員会と職員が一緒になって掲載内容
を決める。文字数も決まっているが、大体のことは載せてもらえている。
- －QRコードは良い
- －市民館の今に関していろいろな世代に向けていろいろなこと・イベントをやっている。
- －絵も多く見やすい。

「市民館」という呼び名について

- －違和感はない。

「市民館だより」との接触

- －回覧板・銀行・小児科・子ども文化センターで見る。

市民館との関わりについて

- －「みやまえ子育てフェスタ」が始まってから 21 年市民館にかかわっている。

情報の出し方

- －自分たちの SNS（ホームページ・インスタグラム・Twitter・ブログ）を活用。ホームページ・インスタグラム・Twitter は双方向のやり取りができ企画委員の募集をし、やり取りの中で委員の決定もした。企画委員の事務担当者がアカウントを共有し、暇な人がやっている。iPhone は簡単なので若い人は得意で、運営は適当にやるのが長く続く秘訣。
- －SNS はフォロワーが 240 人くらいなので、荒れることはない。
- －QR コードでダイレクトに特設ページに行く。今の人は HP からどこかに探しに行くのも面倒なので、QR コードは充実させている。
- －10 月のイベント時だけでなく、孤立して不安になっている親に、市民館・地域子育て支援センター・こども文化センターを繋げるように、おしゃべりしたり一年中発信している。タウンニュース・市政だより・イツコムなども定期的に掲載してもらっている。
- －公園などでのチラシの手渡しは強い。QR コードがあり、日付があれば後は HP を見てくださいで OK。

要望

- －新しい市民館は、いろんな人が来られるようバリアフリーにして欲しい。
- －現在のホールは音の響きがすごく良い。中学の合唱コンクールで利用できる音楽ホールにして欲しい、ストリートピアノも置いて欲しい。

菅生在住のPTA協議会の役員の発言

「市民館だより」について

- －表紙を見て裏のイベントを見る。
- －見出しが気になればQRコードを読み込みサイトをブックマークする。時間があるときに読む。QRコードは文化講座も申し込みができる。
- －青白の二色はシンプルで見やすい。このスタイルに慣れて違和感はない。一枚物はイラストやキャッチがないと目を引かないが。

「市民館」という呼び名について

- －別に何も思わない。

「市民館だより」との接触

- －回覧板で来るがすぐ回す。
- －学校からくる菅生分館のチラシや菅小のイベントやボランティア募集は見る。
- －第一子の時は先輩ママと繋がりたいと思い、保健所などから沢山情報を集めたが子供が多くなると、上野の子の世話もあり自分の経験値の中で片づけるようになった。
- －ドラッグストアや金融機関にチラシを置けば、買い物のルート内なので、ついでに目につきやすく手に取る。

市民館との関わりについて

- －図書館が裏にあり子供が小さい時によく文化センターを利用したが、市民館へのアクセスも悪く、市民館が何をする所かも不明だった。
- －働く親が増えPTAでやることが多い。学校行事で休みを取るのが精一杯。趣味や問題意識があっても、毎週参加は無理、未就学児の入るときは午前中しか時間が無く、子供が学校にいる時間帯内でできるのかが問題で、時間的に難しい。関心はあってもいけな
いとなると見なくなる。

情報の出し方

- －PTAは広報グループがHPを担当し、そのほか、各グループ内ラインや紙のPDF資料を会議などで共有、今伝えたい情報を伝言連絡的に伝える仕組みになっている。今後はラインワークスやHPからダウンロードして情報を出す方向。

要望

ー地域への出前やオンデマンド方式があるといいが、子供の手が離れるまでは利用できないかも。菅生地区は地域のバックアップが強く後援会も熱い。地域と繋がりたいと思っている。

★市民館だより以外の広報について市民館の名称や市民館だよりの配布などを協議した。

§ まず本会議の報告書などを委員の関連団体へ配布することを手始めにすることが決まった。

§ 市民館の名称変更については賛否両論が出された。

賛成意見

ー「市民館」という名称だと、何をする場所なのか分かりづらい。「市民館」という名称は古い、固い。部屋貸しのイメージ。

鷺沼移転のタイミングで「宮前コミュニティセンター」などの名称に変えられないか。宮前区民は比較的若い世代が多く、このような名称の方が親近感や「新しいものができた」という印象を持ってもらえる。

ー移転後の鷺沼で「市民館」という名称だと「古い看板を持ってきちゃったの？」という印象。

ー都内は「コミュニティセンター」という名称を使っている。

反対意見

ーこれまで市民館を使ってきた人は、名称が変わってしまうと「市民館はどこへ行ったの？」と思ってしまう。

その他意見

—名称の変更は全市に関わる議論であり、市長までの確認が必要となるレベルの話だが、副題としてコミュニティセンターの名称を追加するなどであれば、もう少し容易かもしれない。

—市民館を使ってきた人間としては、その名称になじみがあるので、突然「コミュニティセンター」と言われると戸惑うし、利用していない人にとっては、「市民館」も「コミュニティセンター」も差がないのでは。

§ 市民館だよりの配布については、現在市民館だよりの回覧が宮前区全体は約 10 万 8 千世帯に対し、自治会の回覧対象は約 6 万 1 千世帯であり、カバー率は 56%にとどまっているとの指摘があった。

—最近の大型マンションは町内会・自治会に加入していないので、区内の町内会・自治会加入が 6 割とすると意外に回っていない。

—町会自治会以外にも、こども文化センターやいこいの家に配架されているが、いろいろなところに置いてあること自体の周知が必要。

§ デジタル化については、市民館 HP の使い勝手の悪さが指摘され、改良（年齢別、カテゴリ別、時間帯別のリンク、ビジュアル化など）が急がれるという意見が挙がり、市民館ロビーへの PC の設置も提案された。

—バンクーバー市のコミュニティ活動に関するホームページでは、イベント一覧や詳細プログラムなどが容易に見られ、年齢別・カテゴリー別・時間帯別などで探すことも簡単にでき、申し込みも HP からできる。一方で、宮前市民館のホームページは文字の羅列が多くわかりにくい。クリックすればすぐ詳細を見ることができるようにする、シンプルにビジュアル化するなどの工夫が必要。

—ホームページの閲覧数を確認することはできるのか。少なければむしろ紙媒体を強化するなど、やり方も変わってくる。ホームページは自分からアクセスする必要がある、ホームページを改良したとしても、それをどうやって見てもらうかを考えなければいけない。

§ 紙媒体・コンシェルジュの取組の強化について、次の意見が出た。

- P T Aではインスタグラムのアカウントを作ったが、管理・更新を誰が行うのか、個人情報への取扱い、そもそも登録者が少ないなどの課題がある。色々と広報活動を行う中で、やはり紙の力も重要、というところに戻ってきた。
- 広く配ることより、情報を必要としている人にどう届けるかが重要だと考えるので、その手段を探っていきたい。コンシェルジュの取り組みは良い例だと思う。
- 不特定多数の人に大きな網をかける手法だと引かかる人は少ないが、普段から興味を持っている人や市民館に来ている人に手渡しすると興味を持ってもらえる確率が高い、というところからコンシェルジュはスタートした。次は、市民館の外の人へのアピールをどう行っていくかの段階。
- コンシェルジュのなり手が不足しており、どのように増やすかが課題。

§ オンライン配信や出前講座の充実についても引き続きサービス向上が指摘された。

- 市民館だより 10月号に掲載されている講座は、すべての会場が市民館となっている。居住地や身体事情で来館が困難な人がいる。オンライン配信で家や出張所に集まって見ることができるようにするなど、サービス向上が必要。
- 川崎市全体でも「出前講座」など地域へ出ていく社会教育が推進されており、オンライン配信も検討されている。
- 宮前区民祭はとても賑わっていた。市民が多く集まるイベントには市民館も PR のためにブースの出店をしたらどうか。若い世代にもアピールができる。

4. 市民館だよりの改訂・評価

①市民館だよりの構成案

★市民へのインタビューやワーキングでの検討の中から、市民館だよりの改訂に向け修正案を出した。

一面の見出し（目次化）

- ―多岐にわたる事業を出しているため、市民館だよりの1面に見出しを記載して、ページを世代別や興味別に分けてみれば、見やすい。自分に合うものを見つけやすい。
- ―1面に見出しがありまとまっていると、2ページ目以降のページに誘導できるので良い。

見やすいレイアウト

- ―講座名の文字を大きくし、日付を小さくするなど、主従のバランスをよくしてほしい。
- さらに、対象者が一目で明確になるといい。

色の強弱・メリハリつけ

- ―文字がぼんやりして見にくい。色を変えるか、もう少し濃くならないか。
- ―色は宮前区のロゴに使われていることから、青になっている。年間契約なので、年度の途中で色を変えたり、2色刷りにしたりするなどの変更は難しいが、より濃くすることは可能。

QRコードの添付

イラストの多用

- ―わかりやすいキャラクターやマークも目に付く。

対象者のわかりやすさ（マーク）

企画、講座のキーワード・ポイント出し、日付

―表題を見て自分に関係があるか判断する。1面にキャッチーな言葉を入れた見出しを掲載すれば目に留まる。

市民館の存在意義を目につくよう毎号掲載

★以上の構成案以外に申し込みについて検討が協議された。

§ 市民館だよりに掲載する講座については、申込方法がある程度統一した方が良いのではないかという意見が出た。

―市民から便利なQRコードやホームページからの申し込み、申込者が選択できる複数の方法などが要望として挙がった。

―最低ラインとしてQRコードやホームページから申込みできるといい。

―宮前市民館として掲載する以上、申込み方法を統一し、一律で電話やインターネットなど基本となるものを網羅してほしい。提出先ごとに申し込み方法が異なるのではなく、様々な人がスキルに合わせて申込みできるようにしてはどうか。

―外部から申し込む際、住所やFAX番号などを探して申し込むことは難しいのではないか。学校でチラシをもらえなくても、この記事に電話番号だけでも記載があれば、申込みしやすいのではないか。

―1面の一番下に問合せ先は記載しているが、わかりにくい。少なくとも、問い合わせ先はもう少し濃くわかりやすくしても良い。

―電話番号の表記も含め1面に見出しを載せるなどレイアウト・デザインの変更など、欲しい世代に欲しい情報が届く工夫をしていきたい。

§ 現在実施している申し込み方法は、以下の理由などで使い分けをしている。

<主宰団体が対応できるかどうか>

―主催団体が対応できない申し込み方法は掲載できない。子どもが対象の場合、担当がQRコードに対応できるか、課題がある。

＜公平な方法＞

- ―市民館だよりの「高齢者のためのインターネット講座」の申込みについては、インターネットが難しいため、往復はがきにした。「高齢者のためのインターネット講座」の申込みは、以前は、電話やホームページからなども申込みをしていた。だが、ホームページからの申込みはシステム上、タイムラグが出てしまう。先着順では、朝早くから並び、申込み時間になり、電話を頂いても定員になってしまうことがあった。
- ―「スマホ相談会」は、毎月定例で行っている事業だ。使用にある程度慣れている方の相談が中心だ。申込み定員が埋まっても、来月の予定をご案内できるため、電話で受け付けている。予算があるため、1年間に何度も開催するのは難しいが、3～4年継続して初心者向けのインターネット講座を毎年開催している。

＜記録が残る方法＞

- ―実際に講座に参加した方から、往復はがきにすることで記録が残って良いという意見もあり、往復はがきに統一した。
- ―F A Xは記録が残るので情報は確かである。

＜返信の労力＞

- ―「高齢者のためのインターネット講座」は一昨年からは講座を始めたが、申込人数が多いので、全てに返信する負担もあり、往復はがきとなっている。市民館で行っている講座で往復はがきでの申込みは、限られた事業の特異な形だ。往復はがきの書き方はチラシに記載している。

★その他の改定案は次のとおり。

- ―子育て中の保護者は保健師からの情報が多いため、保健師との繋がりを密にすることが大切だろう。第4地区民生委員児童委員協議会はインスタグラムで発信し、インスタグラムを見てサロンに来る人もいる。世代によって状の取り方は様々なため、何かに絞って情報発信するのは難しい。インスタグラムの情報なども掲載したほうが良い。
- ―新しい対象を開拓するには、市民館だよりや市民自主学級、市民自主企画事業は言葉そのものが難しく、表現を変えなければ興味がわからないのではないか。企画の説明も折に触れて掲載。

一 菅生分館だよりは、イラストも多くマークもありわかりやすい。また、見学か体験かなども一目見てわかるように工夫されている。市民館・分館の作成担当で検討会を開くことも良い。

一 市民館だよりで市民の力を募る特集も良い。50周年などで地域史の編纂時には歴史に詳しい人を募集していくことも考えられるのではないかな。地域の事は地域の人が知っている。

一 菅生分館で行っている、事業終了後のフォローとしての同窓会は、人とのつながりや、各種活動が継続的に行われるきっかけとなる有効な手段だと思う。これまでの同窓会情報も載せると面白い。

②市民館だよりの改訂評価（アンケート）

【リニューアル前】

「閲覧」読み終わりましたらお読みください。

宮前市民館だより

第248号 令和5年(2023年)5月1日 発行：川崎市宮前市民館

■ 成人教育事業

今の自分をこれからにつなげるために ～30歳の自分史～

30歳前後になると、何となくこれからの生き方を考えることになりませんか。
今の仕事で頑張ってきたけど、とか。結婚や出産をして生活が変わった、とか。このままの生活でいいのかな、とか。
自分史をまとめることでこれまでの自分を振り返り、同じような思いを持つ人たちに話を聞いてもらったり、気持ちが整理されていきます。
ちょっと立ち止まって、少し先を考える機会を持ってくださいね。

日 時 5月30日(火)～6月27日(火) 10時～12時 全5回
対 象 昭和30歳の方 20人
会 場 宮前市民館
費 用 無料
保 険 1歳以上の未就学児 8人(保険料負担費用5000円)
申 込 5月19日(火) 17時迄ら宮前市民館へ直接、電話、ホームページで。(先着順)

回	日	曜日	タイトル	講師・担当者など	
①	5	30	火	オリエンテーション・自己紹介	自分史作成推進委員会(アドバイザー 田村 真由美)
②	5	6	水	自分を振り返る①～私の好きなもの	
③	5	13	火	自分を振り返る②～私の思っていること	
④	5	20	火	自分の未来を考える	国家資格キャリアコンサルタント 土方 真美
⑤	5	27	火	今の自分をこれからにつなげる	

宮前市民館メールマガジン登録方法

①「kawasakidaily.jp」にメールアドレスを登録 ②送信されたメールに転載されたURLをクリック
③利用規約の閲覧後、「宮前市民館メールマガジン」を選択→登録情報を入力→「登録ボタン」をクリック

【リニューアル後】

「閲覧」読み終わりましたらお読みください。

宮前10月市民館だより

発行：川崎市宮前市民館 第251号 令和5(2023)年10月1日

宮前市民館は、社会教育法に基づき、市民の自立の促進に学習・文化活動を実施する「川崎市の生涯学習施設」です。各種講座の開催や、企画展の開催なども行っています。

〒213-0296 川崎市宮前区宮前3-20-6
TEL 044-255-1136 FAX 044-255-1136
E-mail: kawasakidaily@kcnk.jp

今号のご案内内容です。くわしくは各ページまたは二次元コード！

ひやまゑ 子育てフェスタ 2ページ

●10月21日(土)
10時～15時
ふれあい動物園も開催！

スマホ相談会 2ページ

●11月2日(木)
13時半～

申込：10月17日(火)～

楽しい脳トレゲームで認知症予防 3ページ

●11月10日(金)～
12月15日(金)
14時～16時
申込：10月19日(木)～

強みを見つける！
親のためのセルフブランディング講座

●11月18日(土)
13時～15時
対象 中高生の保護者
申込：10月19日(木)～

宮前区文化協会文化祭 4ページ

●10月29日(日)～
12月5日(火)
申込：10月23日(火)まで

ギャラリー

宮前市民館メールマガジン登録方法：

①「kawasakidaily.jp」にメールアドレスを登録 ②送信されたメールに転載されたURLをクリック
③利用規約の閲覧後、「宮前市民館メールマガジン」を選択→登録情報を入力→「登録ボタン」をクリック

★今までの市民へのインタビューやワーキング会議での協議から、市民館だよりの改訂を9月号から行った。その評価をアンケートで市民にきくこととした。

アンケート項目については、①リニューアルを知っているか、②新しい市民館だよりを見てどう思うか、③修正提案はあるか、④年代、⑤どこで市民館だよりを見たか、の5項目を基本とし、○をすることで回答できるよう簡単なものとした。

★回答者は40代が一番多く、リニューアルしたことを伝えと、改訂項目に関しては好評で、見やすい・ORコードが便利など使い勝手が向上したとの意見が多い。

更にイベントカレンダーやもっとカラー化をといった意見など、様々な意見をいただいた。

★一方、市民館だよりのリニューアルに自発的に気付いた人はほとんどおらず、インパクトが足りなかったかもしれない。又、市民館に来ていない人にこそアンケートを取ってみてはという意見や、あまり変わったように感じないといった意見もあった。

市民館だよりの入手場所としては、町内会の回覧、市民館・図書館が大半を占めており、どうしたら他の場所でも手に取ってもらえるかが今後の課題に挙がった。

市民館だより リニューアル アンケート結果

年 令	子育て (12人)	PTA (7人)	子フェス (20人)	計39人	ネット27人
10代以下			1	1	1
20代	1		1	2	2
30代	5	2	4	11	2
40代	3	3	9	15	1
50代	3	2	3	8	1
60代					7
70代			2		10
80代					6
知っていた	1		9	10	7
知らなかった	11	7	11	29	20
町内会回覧	5	3	10	18	7
市民館・図書館	6	2	7	15	10
宮前区役所	1		2	3	2
区内子ども文化センター	2			2	2
ネット					3

★市民館だよりのリニューアルに自発的に気が付いていた人は1名のみで、インパクトが足りなかったと言える。

★アクセスは、市民館・図書館と町内会の回覧が多かった。

★リニューアルしたことを示したうえでの評価は、概ね好評である。

(ネット リニューアルが良い17人 変わらない5人)

表紙が見出し風になり、一日で自分の興味の或るイベントがすぐに見つかる。

QRコードで詳しい情報へ飛べることや、文字が少なくイラストの多用・

フォントの大きさなどポップな見た目が親しみを感じさせ手に取りやすくなっている。

更に対象者マークやイベントカレンダー、目につくカラー化などの提案が出された。

【意見・提案 27件+ネット意見16件】

◎表紙が見出し風になり、文字少な目で高齢者や子供たちにとっても見やすいレイアウトになってよい。

◎面を見れば紹介内容が一目でわかるので良い。自分の興味があるものがすぐに見つかる。

- ・ 枠組みがイベントごとになってわかりやすい。
- ・ 1 ページ目に記載された紙面の内容がイラスト入りでわかりやすく、知りたい情報にすぐ飛べるし、親しみを感じるデザインなので、手に取ってみたいという気持ちになる。
- ・ ポップな見た目で手に取りやすい。
- ・ イラストが多くなり絵が見やすく印象に残る。
- ・ 文字数が少なくなり読みやすくなった。レイアウトがすっきり。細かい字を拾い読みしなくてよかった。
- ・ フォントが大きくなって見やすい。堅苦しくない。丸く優しい感じで素敵。
- ・ QRコードが見やすくなった。QRコードがついていてとても便利。
- ・ いろいろな情報がありありがたい。

<更なる修正についての意見>

- ・ イベントカレンダーがあると嬉しい。
- ・ 子連れOKか、子供のみか、対象をわかりやすいマークになると良い。
- ・ 月ごとに色合いを変えると、今月も出たなと目につく。
- ・ レイアウトがカラーを多用するとなお良い。
- ・ もっと攻めても良い。
- ・ 市民館に来ていない人にアンケートを取った方がリアルな声が聞ける。
- ・ 市民館をいつも利用している人にとってはあまり変わらない。
- ・ 小学校に置いてあると良い、
- ・ 市のサイトは深くて探すの大変。区役所にもイベント情報は置いてあると良い。

5. 情報を届ける仕組みについて

★どうやったら市民に効率的な広報ができるかについて、まず市民館の認知や利用の少ない現状をイメージから変えることが大事という意見が多かった。

古い・固い・役所イメージ・何をやっているのか不明・貸館イメージ・閉ざされた空間での市民活動のイメージ。

→開かれたイメージ・市民館は、必要な人が必要な時に、必要な情報を取ることができる場所のイメージへ。

★「情報を届ける仕組み」については、従来より市民館だより、市政だよりなど紙媒体の配布や、チラシが配架されたりしている。ポータルサイト「みやまえご近助さん」や市民館のメールマガジンなどのネット情報は見ている人はだんだん増えているようだが、更に目に留まる方法を考える必要がある。

★効率の良い広報にするために、様々な課題が挙がった。

§「市民館だより」の更なるブラッシュアップ、配架の充実

―何年かごとにアンケートを実施し、広報利用に関してのニーズ不満を吸い上げる

―高齢者対象の講座は、チラシを社会福祉協議会を通して民生委員から配布したり「いこいの家」など高齢者が集まる施設に置くと良い。

―子育て世代には、保健所や医院、公園など生活シーンの動線に添った場所に置く

―どこに置いてあるか自体の広報が必要

―自治会館・町内会館への配架も効果があるかもしれない。まだまだ、市民館の活動を広く周知できていないということを認識し、何か方法か変えていかななくてはならない。

§ 情報発信のデジタル化

ロビーや駅でのデジタル表示板（メンテナンスや費用が課題）

§ ミライづくりプロジェクト・コミュニティ施策との連携

§ 市民館の名称変更 → Ex.コミュニティセンターなどに

→愛称公募（朝どれ野菜や果物などを景品に）によって関心を集める

§ ホームページの使い勝手の向上

—年代別で、欲しい目的スキル別になっていると自分の欲しい情報にアクセスできる。トップページが目次仕立てになっていると深く掘らなくても良い。

§ 子育て世代にフォーカスした情報発信

★市民館や分館の大きな施策対象の一つが子育て世代になっているのは、地域情報や市民館情報をもっとも渴望しているのが第一子の子育て世代であるからだ。子育てに関して先輩の経験や仲間との交流を求めているし、その時に地域との関係が密接になると、情報は人を介して流れその後の社会教育への参加もしやすい。

—HP のリード（子育て中のみなさんへ、子が生まれたら、2 歳になったら、、、）

—アドレスの登録（現メールマガジンのブラッシュアップ：現状のメールマガジンはめんどくさい）

—幼稚園・小学校との連携—学校経由の情報発信

§ 学校経由の情報発信

—小さな子ども向けの講座があるときは保育園にチラシを置いた。「夏休み子どもあそびランド」は地区の学校には直接持参した。子供対象の企画や事業を集め「夏休み特集」のチラシなどを作成し集中して学校に配るのも有効。

—市民館だよりは学校には配布していない。1 号につき9, 0 0 0 部印刷しており、町内会に6, 6 0 0 部程度、残りを市民館・図書館等の各関連施設に配架している。

—学校の配布物の数は極めて多いため、配布しても埋もれてしまう可能性が高い。広報については、本当に数が多いので生徒に直接配るものは厳選し、その他は校内に平置きで陳列している。アプリやメール等で保護者宛てに通知ができればよいのではないか。

—市民館から発信し学校経由で子どもへ配布されるチラシも、先生は内容を説明できないため、受け取るだけになっている。学校の先生自体の関心は地域教育会議との連携によって高める。

—市民館や営生分館に近い地域と、そうでない地域では関わる度合いに差がある。夏休み子どもあそびランドが盛況だったということだが、野川・有馬地区の人が行きやすいかというと、なかなか難しいと思う。アリーナの機能がもっと強化できれば良い。

§ シニア世代に向けてシニアのニーズに基づく企画を市民館だよりで特集

—スポーツへの関心が高いので、更に促進させる施策を特集すると注目度が高い。グラウンドゴルフ（区老連）太極拳・ボッチャ・公園体操・メロコス体操（保健所）自彊術（分館）・ソフトボールやバレーボール（全町連）など様々なスポーツ実施しているが、現在、脳トレとして人気の卓球（スポーツセンター・こども文化センター・市民館分館・町内会館・老人会）は、なかなか台の確保が難しく、個人利用やお試しを検討すると関心が集まる。

§ メディアミックス

—各小学校の協力を得てのチラシの配布、市政だよりの宮前区版への掲載、更に市民館だより、タウンニュースなど紙媒体に加えSNSでのTwitterやInstagram、TikTokなど様々な媒体を利用し、重層的にいろいろなところから情報が流れると目に留まる。

—市民館では一昨年よりメールマガジンを発信している。現状では360名程度の登録者数がある。

—タウンニュースは区内で2万枚配布されている。タウンニュースに講座の一部でも広告を掲載できれば、単純計算で2万人の人に見てもらえると考えられる。タウンニュースの記者には毎週、市民館のチラシを渡しており、記事になったときの効果は、確実に見込める。

§ コンシェルジュの強化

—地域の情報が集まるスポットを作ったり、市民コンシェルジュが情報を案内する地域情報プラザのようなスペースを作る。一方で、宮前市民館の中だけで活動すると、来館しないとコンシェルジュにも会うことがないので、様々な場所へ出前できれば良い。その為にコンシェルジュの確保が必要。

§ 広報のグランドデザイン 重層的な発信 関係部署との連携

—町内会・自治会を所管している地域振興課、地域包括支援センターとの連携
ソーシャルデザインセンター。

- ―区全町内・自治会連合会・校長会など地域にある団体のヘッドに市民館館長が説明し、繋がる必要がある。
- ―地域に関係する町内会・自治会や健康福祉部署との連携や民生委員とのネットワークが必須である。寺子屋の利用はもとより、出前講座の実施場所、広報、講師の育成など地域コーディネーターと一緒に進めなければならない。地域コーディネーターの養成や市民コンシェルジュの活用など繋ぎ役の人を増やすことがますます重要になる。
- ―個別の事業や講座の個々の広報にとどまらず、関連事業やターゲットごとのひとまとまりの広報の仕方も検討し、包括的・重層的に広報する体制を作れば効率が良い、このように様々なステージで、関係部署と一緒に取り組まなければならない。市民館が地域に根差し、支えられてこそ機能することを考えれば、地域の基礎基盤の町内会・自治会・民生委員や学校・PTA、更に分館との連携がさらに太くなることが必須である。

6. おわりに 今後への提言

★今期は、前期の報告書で提言された市民館と市民の情報共有のための具体的な施策として、市民館だよりの改訂を実施できた。市民と協働した改訂作業は川崎市7区の中で初めての試みであった。その為に広報について市民へのインタビューで意見を聴取し、改訂についてはアンケートで評価を採った。

全市民に一様に広報することは、市民の情報の取り方も様々なため、至難であり、決して効率が良いとは言えない。情報を必要としている市民の手の届きやすいところに情報を届けるためには、きめ細やかに今回のような小さな積み重ねを重ねていく以外に近道はない。

最後に各委員からの今後へ向けての提言を挙げたい。

チラシの活用を

§ 市民館に来ている人の継続的なかわりを担保するには、講座の終わりに、今後開催される講座やイベントのチラシをカテゴリーを越えて幅広く集めて配布したり、**チラシコーナー**を設置し、学習意欲や関心を途切れなくにする。イベントや講座の時に、次回を予告をすると、参加者から口コミで広がって次に繋がる。紙のチラシより拡散の効率の良い PDF も一緒に利用すると良い。

その為に、市民館は区内の活動グループに「チラシを配布します」とアナウンスし、チラシを置いてほしい人が持ってくる仕組みを作る。受講者の個人的なチラシも渡せるようにすることが望ましい。市民館以外の場所で開催する講座やイベントのチラシも置いてもいいスペースを作るなど、市民館のロビーのチラシ掲示版の充実を。

§ チラシを置きたいと考える人は、市民館においてあるチラシも見ることが多い。情報が広がる可能性があり、その情報がその人を通じて、市民館を利用したことのない人にも知ってもらえるきっかけとなるかもしれない。市民館から学びの場が広がり、出会う人も多くなる。どんな活字の情報を見るよりも、参加した人の感想を聞いたほうが効果的。口コミの力は大きい。また、参加者同士の会話の話題にもなれば、知り合った同士が次の講座と一緒に参加するきっかけを作ることができるかもしれない。市民館だよりもぜひ受付に置きたい。人と人が繋がりながら情報が伝達される方法として、情報をできるだけ市民の手の届きやすい身近なところに置くことが載せると考える。

人と人のコミュニケーションの中に、自然と話題にのぼるような、日常に寄り添う市民館であると良い。

出前講座から分館新設へ

§ 市民館だよりで情報を見ても、市民館に来るためには地域的に遠いということが障害になることが、特に子育て世代や高齢者には多い。アクセスの悪さから、市民館に来られない人たちには（野川や向丘など）、分館や出張所さらにはこども文化センターや各町内会の集会所・こども食堂などを利用し、出前講座をもっと活用すべきである。徒歩圏内に人が集まれる場所があることが大切で、市民館を中心に衛星のような居場所の分散があれば、様々な人たちとの会話が生まれ、健康にも寄与する。

§ 「気軽にちょっと寄ってみよう、お茶でも飲みながら、誰かに会えるかも」

本来なら歩いて、車で、バスに乗り・・・10分ほどの所（地域）に市民館があることがベストである。少子高齢化を迎えるにあたり、生涯学習施設である市民館は、太陽のまわりを回る幾つもある惑星のように、それぞれの地域に規模は小さくてもそれらの機能を備えることが市民サービス向上に繋がる。

川崎市は、鷺沼駅前に市民館・図書館・区役所を移転するにあたり、地域バランスを考慮した区全体の機能向上という観点から、2022年2月、「向丘出張所の今後の活用に関する方針」を策定。基本的な考え方として「多世代が気軽に立ち寄り、人や活動がつながる、向丘地区の核となる出張所」である。この川崎市の方針に沿って、今後は「宮前市民館向丘出張所分館」として生涯学習施設を新設することを目指して頂きたい。

区役所と市民館の情報の共有

§ 区役所のみやまえ BASE は LINE を利用している。市民館は LINE が無いが区役所の LINE に乗せてもらえると良い。その為には区役所と市民館での各事業情報の共有が必要である。

§ 宮前市民館と宮前市役所との事業の年間の日程調整することは、お互いに開催の PR をし集客することもできる。その為には、年度末に次年度の大きなイベントが重ならないよう区役所と市民館の年間スケジュールを1枚にまとめ、市民に PR する必要がある。1枚スケジュール表にまとめることで、両方のスケジュール見なくて済み、そうすることで市民も自らのイベントの開催日の調整や、イベントへの参加の日程の調整に活用できるようになる。例えばみやまえ BASE と市民館市民自主企画事業や学級のプレゼン会、区役所でのロビーコンサートと市民館のロビーカフェの日程など、同じようなカテゴリーの事業に関して1枚の月間スケジュールなどに落とし込めば両方の PR になるう。

要は縦割りの PR でなく、市民目線で、事業とスケジュールが見やすくなることが寛容である。

§ また、みやまえ BASE に関しては、LINE で企画会議やイベントの開催連絡や議事録の交換など、最新ツールを大いに活用している、これに関しても、宮前市民館でも LINE のオープンチャットなどを大いに活用し情報交換 PR に活かす時代になってきている。これも区役所と連携し運用ノウハウなど連携強化が必要である。

他にも Facebook も市民館でも活用が必要。

例： Facebook の宮前区 SDC（ソーシャルデザインセンター）も同様。

楽しいアプリ開発を

§ 情報媒体も利用状況が変化している。インスタグラムの伝播は、アカウントがばれるのを嫌がってイイネが押せず広がらない。

一方、高齢者の間では2023年10月から運用されている川崎市の健康ポイント事業「かわさき TEKTEK（テクテク）」のアプリが注目を集めている。

お知らせやデータ・イベントなど得られる情報が多く、健康アプリとして万歩計代わりに使ったりするほか、特定の行動によってポイントが付いたり、小学校への寄付に繋がるような仕組みになっている。

自分の目標の歩数に達成する喜びもあり、楽しいアプリでつい開きたくなるような仕掛けがされている。このような川崎全体で市民館全体も見られるような仕組みがあると良い。

ポイントが付くという仕組みは参考になるのではないかな。市民館の活動に参加したら何ポイント付く、といった仕組みを作り、ポイントに応じて地元飲食店等の協賛企業から特典をもらえるようにするとか。市民館の取組内容は良いものがあるのだから、もっとPRしないともったいない。

区単位で楽しい活動が増える、区を超えて参加できる、市民に親しまれる市民館を目指す。単年度でできるものではないので、今後時間をかけてでも、良い情報発信のツールを作ることが大切なのではないだろうか。



広報のグランドデザインと人的・予算措置を

§ 行政はもっと広報に人的資源と費用をかけるべき。南区長が「知る・かかわる・好きになる」ことが大切と言っているが、広報ツールの開発運営に注力すべき。

§ 市民館だよりのQRコードからも、その講座情報だけでなく、関連情報へ飛べるよう、紐づけすると情報が拡散される。その紐づけは職員がする。

§ 然るべき額の広告宣伝予算を前広に獲得しておく。

鷺沼移転に向け、もっと今より多額の予算を取れるよう目標値を提案しておく。

”知る、参加する、好きになる” という素晴らしい行程目標を達成する為にも一定のPR予算は不可欠。

§ ”市民館”というネーミングを ”コミュニティセンター” とするのはどうか。

新しい市民館の”基本理念”は”交流・つながり・場づくり” と言ったコミュニケーションの場とある。ならば、”宮前コミュニティセンター” を名称とし、市の他の区とのバランスが必要というのであれば、サブタイトルとして ”宮前市民館”と小さな文字で表現してはどうか。

<添付資料>

本会議・ワーキング

	日 時	内 容
第 1 回	6/28（火） 10-12	市民館との関わり
第 2 回	9/21（水） 10-12	今期のテーマについて
ワーキング①	10/27（木） 10-12	紙媒体、デジタル化について
ワーキング②	11/24（木） 10-12	広報のあり方について・インタビュー
第 3 回	12/13（火） 10-12	市民館だよりの現状について
ワーキング③	1/24（火） 13:30-15:30	市民館だよりの記事の分類
第 4 回	2/19（日） 13:15-17	市民館だよりの改訂について
ワーキング④	3/14（火） 10-12	活動企画の分類分析
ワーキング⑤	4/18（火） 10-12	市民館だよりのリニューアルについて
ワーキング⑥	5/23（火） 10-12	世代別市民への企画・広報について
第 5 回	7/14（金） 10-12	市民館だよりの構成案について
第 6 回	9/20（水） 10-12	市民館だよりの改訂評価について
ワーキング⑦	10/19（木） 12:30-13:30	市民館だよりアンケート・インタビュー
第 7 回	12/6（水） 14-16	報告書作成について

ワーキング⑧	1/24（水）10-12	市民館だよりリニューアルの結果
第8回	2/18（日）13-17	今後への提案について

<宮前市民館専門部会 委員名簿>

任期：令和4年5月1日から令和6年4月30日

氏 名		所 属
部会長	かわにし かずこ 川西 和子	調査モデレーター・分析・各種司会・日本語教授
副部会長	やまもと りょうこ 山本 良子	宮前区第4地区民生委員児童委員協議会 会長
	わたなべ みよこ 渡辺 美代子	宮前区文化協会 会計
	やまもと たみお 山本 太三雄	菅生分館利用者懇談会
	たかく みのる 高久 實	宮前区全町内・自治会連合会 理事
	ならさき みつお 檜崎 光雄	市民委員
	とうま さちえ 當間 幸江	宮前区PTA協議会 副会長
	まるお あきひこ 丸尾 明彦	西有馬小学校 校長

[illegible]

令和4（2024）年2月1日

No. 182

平日（月～金） 午後2時～5時

菅生分館だより

所：〒104-8501 東京都中央区新富町一丁目1番1号
TEL 03-44 977-476 FAX 03-44 976-3490
ホームページは「書く・读む」で検索！

菅生分館 〒104-8501 東京都中央区新富町一丁目1番1号

来館者から

知識を学ぶ

千石ではここ、高齢湖のここと暮らしや地域のこことなど、様々なテーマで、講座やイベントを開催しました。

- おしゃべりクラブが活躍中！
- 読でもわかるスマホ教室
- おしゃべりクラブが活躍中！
- おしゃべりクラブが活躍中！

生きがいを見つけろ

分館で、ボランティアとして参加する皆さんもいらっしゃいます。今年度も、学習中にお子さんを預かる保育ボランティアや、おもちゃをなおすおもちゃドクターが活動されました。

11月に開催された「千つなごまつり」では、運営スタッフとして、多くのボランティアが参加されました。

令和5年度 菅生分館でこんな活動がありました

仲間と楽しむ

さまざまなサークルが菅生分館の『集まる会』『年賀宴』『和室』などを活用して活動されています。成果を発表する『サークル交流発表会』は、6月に開催され、盛況でした。

何が始まるのか、サークルの情報は、掲示板や、受付のグループ紹介カードに案内しています。また、年に1回定期開催のウェルカムデーでは、気軽に活動を見学・体験することができです。（開催中、詳しくは、東倉庫参照）

情報を探そう

区内・市内の消費生活センターや、区民センターなどの協力を得て、各種の相談窓口を紹介しています。

情報を探そう

分館の蔵書約1,800冊、宮野国定資料の大部分（約70冊）に三ヶ月以上入館した、本の貸出しをしています。

令和４・５年度
川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会
研究報告書

「 人と人を繋ぐ市民館であるためにⅡ 」

令和６（２０２４）年３月発行
編集 川崎市社会教育委員会議 宮前市民館専門部会
（事務局）川崎市宮前市民館
川崎市宮前区宮前平２－２０－４
電話 ０４４－８８８－３９１１

令和 6 年度 補修工事予定一覧

1 整備業務委託等

(1) 宮前市民館・図書館

- ・ 冷温水発生機その他設備
(冷温水発生機の分解整備、部品交換、操作盤等の更新・試運転)
- ・ ピンスポット照明設備
(宮前市民館大ホールのピンスポット及び整流機の整備点検・試運転)
- ・ 泡消火設備
(駐車場泡消火設備の泡フォームヘッド及び一斉開放弁バタフライバルブ等の交換・試運転)
- ・ 泡消火剤及び設備配管
(泡消火剤の更新と配管のフラッシング等整備点検)

2 軽易工事

(1) 宮前市民館・図書館

- ・ 非常用 L E D 照明器具ほか補修工事
- ・ 大会議室ほかドアハンドル補修工事
- ・ 昇降機 2 号機補修工事
- ・ 消防設備 (ダンパー、垂れ壁、呼水槽ほか) 補修工事
- ・ 大会議室床補修工事
- ・ 冷温水ポンプ電磁接触器補修工事
- ・ 照明設備 L E D 化工事

(2) 菅生分館関係

- ・ 物置設置工事
- ・ 看板灯設置工事

(3) 有馬・野川生涯学習支援施設

- ・ 集会室・図書室の室内機洗浄補修工事

社会教育振興事業					
事業名	事業内容	予算(円)		5年度事業内容	6年度事業計画
		R5	R6		
社会参加・共生推進学習事業					
識字学習活動	日本で生活する外国人が、日常生活に必要な基礎的日本語を学ぶとともに、日本人と外国人が互いの文化等を学び合うことで、多文化共生社会をめざします。	報償費 422,000 消耗品 8,000 役務費 1,000	報償費 422,000 消耗品 8,000 役務費 1,000	昼 4/14～3/8 金 10:00～12:00 全33回 保育つき（申込み者無し） 夜 4/12～3/6 水 19:00～20:30 全35回	昼 4/19～3/14 金 10:00～12:00 全33回 保育つき（3名参加） 夜 4/10～3/5 水 19:00～20:30 全35回
識字ボランティア研修	識字学習活動等に参画するボランティアの資質の向上を図り、多文化共生の地域社会をめざします。	報償費 40,000	報償費 40,000	昼入門研修 8/25～10/27 金 14:00～16:00 参加者23人（定員20人） 昼ブラッシュアップ研修 2/16 金 14:00～16:00 参加者14人（定員14人） 全1回 夜ブラッシュアップ研修 7/26 水 18:00～20:00 参加者8人（定員20人） 3/13 水 18:00～20:00 参加者15人（定員15人） 全2回	昼 ブラッシュアップ研修 10月実施予定。全2回 夜ブラッシュアップ研修 7/24 水 18:00～20:00 定員30人、その他1回 全2回
障がい者社会参加活動	障がいのある人の社会参加を図るため、障がい者も健常者も共に余暇活動や交流を行い、共生社会をめざします。	報償費 120,000 役務費 15,000	報償費 120,000 役務費 15,000	バスハイク、工作ほか 5/14～3/10 日 10:00～15:00 全10回	バスハイク、工作、スポーツ体験ほか 5/29～3/9 日 10:00～15:00 全10回
市民自治基礎学習事業					
平和・人権・男女平等学習	憲法・教育基本法の理念に基づき、平和や人権の尊重、性による差別に関する学習により、共に生きる地域社会の創造や男女共同参画社会の形成をめざします。	報償費 150,000 消耗品 8,000 役務費 2,000	報償費 150,000 消耗品 8,000 役務費 2,000	①「生きにくい社会の中で子育てと働き方を考える」 1/11～3/14 木 10:00～12:00 全10回 参加者16人（定員20人） ②「子どもに伝えたい平和の絵本」 1/13～3/9 土 10:00～12:00 全5回 参加者6人（定員15人）	1～3月に5回程度の2講座を予定
青少年教室事業（R4新設）	小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくりやつながりづくりを促進します。	報償費 50,000 消耗品 8,000 役務費 2,000	報償費 50,000 消耗品 8,000 役務費 2,000	「みんなで作ろう作品展」 3/16～3/17 土・日 10:00～16:00 全2回 参加者135人（企画委員5人）	9月開催予定 「テレビ局の現場を知ろう～報道番組作成の舞台裏～」
成人教室事業（R4新設）	成人層を対象として、成人期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくりやつながりづくりを促進します。	報償費 50,000 消耗品 5,000 役務費 2,000	報償費 40,000 消耗品 5,000 役務費 2,000	「今の自分をこれからにつなげるために～30歳の自分史～」 5/30～6/27 火 10:00～12:00 全5回 参加者8人（定員20人）	冬に実施予定
シニアの社会参加支援事業	団塊の世代等の市民が、社会で培った豊富な経験・知識・多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での活動に参加できるよう支援します。	報償費 75,000 消耗品 5,000 役務費 2,000	報償費 75,000 消耗品 5,000 役務費 2,000	「地元発見！スマホを持って旅に出よう」 5/17～7/19 水 14:00～16:00 全10回 参加者25人（定員20人）	「趣味のスマホと園芸～花を愛でスマホを学ぶ～」 5/8～7/10 水 14:00～16:00 全10回 参加者24人（定員20人）
高齢者セミナー（R3新設）	高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供し、学習を通じた生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、幸福な高齢期を送るための支援をします。	報償費 75,000 消耗品 6,000 役務費 2,000	報償費 75,000 消耗品 6,000 役務費 2,000	「笑い与健康」 1/12～2/9 金 14:00～16:00 全5回 参加者18人（定員20人）	秋～冬に実施予定
家庭・地域教育学級	家庭教育の充実を図るために、学齢期の子どもの成長や親子関係について学びます。	報償費 100,000 消耗品 5,000 役務費 4,000	報償費 100,000 消耗品 5,000 役務費 4,000	「宮前親子学級」 9/7～12/14 木 10:00～12:00 全14回 参加者13人（定員15人）	「宮前親子学級」 9/5～12/12 木 10:00～12:00 全15回 定員20人
市民館保育活動	幼い子をもつ親の学習機会を保障するため、主催事業に保育を併設し、地域で支え合う子育ての環境醸成をめざします。	報償費 101,000 消耗品 5,000	報償費 101,000 消耗品 5,000	①「今の自分をこれからにつなげるために～30歳の自分史～」 5/30～6/27、火 10:00～12:00 全5回 別室保育8人（定員8人） ②「宮前親子学級」 9/7～12/14 木 10:00～12:00 全14回 別室保育10人（定員10人）	①「識字学習活動」 4/19～3/14 金 10:00～12:00 全33回 定員5人 ②「宮前親子学級」 9/5～12/12 木 10:00～12:00 全15回 定員10人他未定
保育ボランティア研修	市民館保育を支援するボランティアの資質の向上を図り、人間らしさを育む社会をめざします。	報償費 30,000	報償費 30,000	「子どもの安全を守る」 11/29～1/31 金 10:00～12:00 全5回 参加者19人（定員20人）	ブラッシュアップ研修実施予定（時期未定）
区家庭教育推進連絡会	家庭教育推進事業を円滑に行うために協議します。			10月19日、2月15日開催 参加者5人（委員数5人）	秋及び冬に開催予定
PTA家庭教育学級講師派遣	市内小学校PTA等で開設される家庭教育学級の開設の支援及び講師謝礼を補助します。	報償費 実施額	報償費 実施額	宮前区及び高津区（一部）の小・中学校29校にて開設 9月～12月	宮前区及び高津区（一部）の小・中学校29校にて開設 9月～12月

事業名	事業内容	予算(円)		5年度事業内容	6年度事業計画
		R5	R6		
市民学習・市民活動活性化学習事業					
市民自主学級 (長期)(短期)	地域の課題等の解決のための学びを個人・グループが企画提案し、市民館と協働で学級を企画運営します。	委託料 75,000	委託料 75,000	①「宮前を知ろう歩こう楽しもう」 9/3～12/10 日 10:00～12:00 全6回 参加者32人 (定員30人)	「宮前を知ろう歩こう楽しもう」 9/29～12/15 日 10:00～12:00 全6回 定員30人
市民自主企画事業	地域の特性に応じて、学習・文化・芸術の振興や市民の交流、ネットワーク化に向けて、多様な形態の事業を個人・グループが企画提案し市民館と協働で事業を企画運営します。	委託料 180,000	委託料 246,000	①「長崎被爆体験を聞いて平和を考える」 8/5 土 オンライン併用講座 参加者30人 (定員50人) ②「Let's Enjoy Your Song～みんなであたおう!!～」 9/12～2/13 火 10:00～12:00 全5回 参加者95人 (定員80人)	①「うたごえ市民館」 9/10～2/11 全6回 実施予定 (定員80人) ②「かわさき100年 本に描かれたわが町を探れ!」 9/29 10/27 全2回 日 14:00～16:30 定員 各50人
市民エンパワーメント研修	市民自らが考え生活・地域課題等に取り組むために市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供します。	報償費 60,000 消耗品 8,000 役務費 2,000	報償費 60,000 消耗品 8,000 役務費 2,000	「スマボラ宮前ブラッシュアップ研修」 1/12～3/14 木 13:00～15:00 全5回 参加者20人 (定員20人)	2～3月に実施予定
市民講師活用事業 (R4新設)	様々な分野において、豊富な経験や資格、技術等を持っている市民が、地域の生涯学習における身近な学習支援者「市民講師」として活躍できるように、育成・支援を行います。	報償費 65,000 消耗品 5,000 役務費 2,000	報償費 60,000 消耗品 5,000 役務費 2,000	「強みを見つける！親のためのセルフブランディング講座」 1/11 日 13:00～15:00 中止	秋以降実施予定
PTA活動研修	子どもの健やかな成長を支えるPTA活動の研修をします。	報償費 60,000 消耗品 5,000	報償費 60,000 消耗品 5,000	成人部会 1回、広報部会 1回、校外部会 1回、学年学級部会 1回、役員会 1回、家庭教育学級報告会 1回	成人部会 1回、広報部会 1回、校外部会 1回、役員会 2回開催、家庭教育学級報告会 1回開催予定
生涯学習交流集会	市民主体の生涯学習・社会教育に向けて市民と職員が共に考えます。	報償費 30,000 役務費 1,000	報償費 30,000 役務費 1,000	市民自主学級・市民自主企画事業実施団体による成果報告と講話（営生分館と合同開催） 報告者:学級1組、企画事業3組 テーマ:「これからの市民活動について」 3/9 土 13:30～15:30 24人 (定員30人)	3月実施予定
学習情報提供・学習相談事業	市民学習活動支援の一環として、様々な学習情報・市民活動情報を収集整理し、提供します。また、市民活動を支える市民相互援助システムづくりを図ります。			来館、電話、メールなどによる相談への対応（138件）	来館、電話、メールなどによる相談への対応
市民・行政協働・ネットワーク学習事業					
行政区 地域教育会議 推進事業	家庭・学校・地域の連携により、区内の子育てや生涯学習ネットワーク、教育への市民参画システム作りを行い、地域の教育力の向上をめざします。			宮前区地域教育会議の活動への支援（教育を語るつどい 12/3 子ども会議 1/24）	宮前区地域教育会議の活動への支援
行政区 生涯学習推進会議	市及び区の生涯学習推進基本計画に基き、行政職員による会議を行います。			実施せず	実施未定
課題別連携事業等	地域での子育てや福祉、環境、多文化共生などの課題に取り組むため、関係する市民や機関と連携した会議に参加するとともに、事業を協働で実施します。 様々な手法による市民の主体的で自由な表現活動を振興し、地域に根ざした文化を創造します。	委託料 130,000 消耗品 5,000	委託料 130,000 消耗品 5,000	①「子フェスタプレイベント ギャラリー展示」 7/7～9 金～日 10:00～15:00 参加者230人 「0歳からのファミリーコンサート」 9/24 日 10:00～12:00 参加者49人 「みやまえ子育てフェスタ2023」 10/21 土 10:00～15:00 参加者・来場者約1,300人 「冬こそ足育講座」 1/26 金 10:30～11:30 参加者4組9人 「キットパスであそぼう!」 3/1 金 10:30～11:30 参加者13組31人 ②「フレンドおもちゃ病院」 4/23、6/25、8/27、10/22、12/24、2/25 日 13:00～16:00 来場者170人（合計） ③「宮前区子育て支援関係者連絡会」宮前区地域みまもり支援センター地域ケア推進課を事務局として関係団体で結成（連絡会、うえるかむクラスほか） 4/12、5/10、6/12、6/19、6/26、7/26、10/4、12/6、1/29、2/7 水 10:00～12:00	①「クリエイティブDAY」 5/18 土 11:00～14:00 参加者 78人 「子フェスタ広場2DAYS」 6/15～16 土～日 10:00～15:00 参加者 436人 みやまえ子育てフェスタ2024」 10/26 土 ②「フレンドおもちゃ病院」 4/28、6/23、8/25、10/27、12/22、2/23 日 13:00～16:00 ③「宮前区子育て支援関係者連絡会」宮前区地域みまもり支援センター地域ケア推進課を事務局として関係団体で結成（連絡会、うえるかむクラスほか）
現代的課題対応学習事業					
現代的課題学習事業	現代的、今日的な課題に係わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援します。	報償費 40,000 消耗品 5,000	報償費 40,000 消耗品 5,000	①「スマホ相談会」 5/11～3/7 木 全13回 13:30～15:20 参加者計250人 ②「楽しい脳トレゲームで認知症予防」 11/10～12/15 金 全6回 14:00～16:00 参加者20人（定員20人）	「スマホ相談会」 4/4～ 開催中（毎月第1木曜日） 参加者計65人（定員8人×3回）今後9回実施予定

事業名	事業内容	予算(円)		5年度事業内容	6年度事業計画
		R5	R6		
教育文化会館・市民館学習環境整備事業					
社会教育委員会議 宮前市民館専門部会	市民館の円滑な運営を図るため各種事業の企画実施について調査審議します。			社会教育委員会議宮前市民館専門部会（7/14、9/20、12/6、2/18）開催 委員8人	社会教育委員会議宮前市民館専門部会 年4回開催予定（6/28ほか） 委員8人
刊行・広報活動	学習記録や調査研究書の作成、館のたよりやホームページなどにより、学習情報の蓄積、公開を行います。	印刷製本費 500,000 役務費 10,000	印刷製本費 500,000 役務費 10,000	市民館だより年7回 各回9,000部発行 ホームページ随時更新 メールマガジン17回発行	市民館だより年6回 各回9,000部発行 ホームページ随時更新 メールマガジン発行
その他		食糧費 5,000 備品購入費 37,000	食糧費 5,000 備品購入費 37,000	講師用 飲料水 zoomライセンス購入費	講師用 飲料水 zoomライセンス購入費
情報機器整備事業	視聴覚センターと連携して情報技術機器の整備を図ります。			視聴覚教材及び視聴覚機材の貸出	視聴覚教材及び視聴覚機材の貸出
その他事業					
地域の寺子屋事業	地域教育会議、地域のNPOなどが実施主体となって、放課後に子どもたちに、様々な学習機会を提供し学力向上や豊かな人間形成を図ります。	生涯学習 推進課 予算	生涯学習 推進課 予算	（中原区・高津区と3区合同で実施） 「中学校寺子屋先生スキルアップ研修」 9/28 木 10:00～12:00 参加者21人（会場高津市民館） 「中部地区情報交換会」 11/8 水 10:00～11:30 参加者26人（会場中原市民館）	「中学校寺子屋先生情報交換会」 8月に実施予定
社会教育振興事業 予算額	報償費	1,468,000	1,453,000		
	消耗品費	78,000	78,000		
	食糧費	5,000	5,000		
	印刷製本費	500,000	500,000		
	役務費	45,000	45,000		
	備品購入費	37,000	37,000		
	委託料	385,000	451,000		
	合計額	2,518,000	2,569,000		
区地域課題対応事業					
事業名	事業内容	予算(円)		5年度事業内容	6年度事業計画
		R5	R6		
宮前区地域人材育成指針 関連事業	地域人材の育成と活用を進めるため、区役所各課と連携したモデル事業や地域人材育成指針の策定を行います。	報償費 83,000 消耗品 37,000 食糧費 1,000 役務費 5,000	報償費 83,000 消耗品 36,000 食糧費 1,000 役務費 5,000	「みどりのまちづくりを目指して～花壇ボランティアになりませんか～」 （向丘出張所と連携） 1/30～2/27 火 14:00～16:00 全4回 参加者 18人（定員20人）	向丘出張所と連携して実施予定
多様な主体の社会参加推進事業	多様化する地域課題の解決に向けて、地域活動（まちづくり）と比較的疎遠であった中高生や外国人市民に遊びをキーワードにした世代間交流、多文化交流の場を提供することにより、多様な主体による活性化した地域コミュニティ創造の一助とします。	委託料 569,000	委託料 577,000	「夏休み子どもあそびランド2023」 8/19（土）、8/20（日） 10:00～12:00 会場:宮前市民館、区役所前広場 内容:昔あそび、工作、ホールでのストラックアウト等 参加者：3000人（来場者・達人・サポーター）	「夏休み子どもあそびランド2024」 8/17（土）、8/18（日） 10:00～15:00 会場:宮前市民館、区役所前広場 内容:おはなし会、工作、ジャグリング体験、ボードゲーム体験、クイズラリー等
区地域課題対応 事業予算額	報償費	83,000	83,000		
	消耗品費	37,000	36,000		
	食糧費	1,000	1,000		
	印刷製本費	0	0		
	役務費	5,000	5,000		
	委託料	569,000	577,000		
	合計額	695,000	702,000		

	報償費	需用費				役務費			備品購入費	委託費	合計
			消耗品	印刷	食糧		郵便	保険			
社会教育振興事業予算額	1,453,000	583,000	78,000	500,000	5,000	45,000	45,000	0	37,000	451,000	2,569,000
区地域課題対応事業予算額	83,000	37,000	36,000	0	1,000	5,000	5,000	0	0	577,000	702,000
合計	1,536,000	620,000	114,000	500,000	6,000	50,000	50,000	0	37,000	1,028,000	3,271,000

令和6年度 宮前市民館菅生分館 社会教育振興事業実施状況

社会教育振興事業					
事業名	事業内容	当初予算(円)		5年度事業内容	6年度事業計画
		R5	R6		
市民自治基礎学習事業					
青少年教室事業	小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決や地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり・つながりづくりを促進します。			「菅生分館でマナビのタネをみつけよう」 対象:小・中学生 全9回 7/24 盆踊り体験(8人) 7/25 絵本・紙芝居体験(7人) 7/27 手話体験(10人) 8/ 1 卓球体験(8人) 8/ 4 卓球体験(8人) 8/ 6 囲碁体験(6人) 8/14 ヨガ体験(4人) 8/19 囲碁体験(6人) 8/20 菅生の今と昔を知る(6人)	「菅生分館でマナビのタネをみつけよう」 対象:小・中学生 全12回 7/22 ヨガ体験(定員5人) 7/22 盆踊り体験(定員8人) 7/23 卓球体験(定員8人) 7/25 手話体験(定員10人) 8/ 1 手話体験(定員10人) 7/26 昭和史の学習(定員8人) 8/23 昭和史の学習(定員8人) 7/28 太極拳体験(定員8人) 8/ 4 太極拳体験(定員8人) 8/ 2 卓球体験(定員8人) 8/ 4 囲碁体験(定員8人) 8/17 囲碁体験(定員8人) それぞれ2時間程度
シニアの社会参加支援事業	団塊の世代等の市民が、社会で培った豊富な経験・知識・多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での活動に参加できるよう支援します。	報償費 77,000 消耗品 4,000 役務費 1,000	報償費 82,500 消耗品 3,000 役務費 1,000	「コロナでなまった脳を元気に」 対象:原則として、概ね50歳以上 6/6(18人)、6/13(19人)、6/20(19人)、 6/27(18人)、7/4(16人) ※7/11 同窓会(7人) ※7/18 此文で手品披露(5人) ※9/26 同窓会(11人) ※11/24 手つなぎまつり準備(3人) ※11/25 手つなぎまつりボランティア協力(3人)	「スマホボランティア養成講座」(定員20人) 6/26～7/24 水曜 13時半～15時半 全5回 対象:原則として、概ね50歳以上 申込者23人
家庭・地域教育学級	家庭教育の充実を図るために、学齢期の子どもの成長や親子関係について学びます。	報償費 77,000 消耗品 4,000 役務費 1,000	報償費 82,500 消耗品 3,000 役務費 1,000	「赤ちゃん期の今だからできること きいてみよう!やってみよう!」(定員15組) 対象:令和4年4月～令和5年3生まれの第一子 の子どもと保護者 全8回 10/6(14人)、10/15(16人)、10/22(12人)、 10/27(14人)、11/10(14人)、11/17(14人)、 11/24(10人)、12/1(16人) 同窓会 1/18(6組)	「赤ちゃん期の今だからできること きいてみよう!やってみよう!」(定員15組) 10月～12月 全8回 対象:令和5年4月～令和6年3生まれの第1子 の子どもと保護者
市民館保育活動	幼い子をもつ親の学習機会を保障するため、主催事業に保育を併設し、地域で支え合う子育ての環境醸成をめざします。	報償費 43,000 消耗品 4,000 役務費 1,000	報償費 43,000 消耗品 3,000 役務費 1,000	保育活動実施事業 ・市民エンバ ^o ーメント事業 「地域の大人が子どものためにできることを考える講座」 6月～7月 3回 ・家庭・地域教育学級 「赤ちゃん期の今だからできること きいてみよう!やってみよう!」 10月～12月 8回 ・現代的課題学習事業 「はじめての絵本づくり講座」 1月～2月 3回 ・現代的課題学習事業 「大人だって絵本を楽しむ会」 1月 1回	保育活動実施事業 ・市民自主企画事業 「今と昔は違うよ!子供の発達知識を、 3世代で学ぼう!」 9月8日 1回 ・家庭・地域教育学級 「赤ちゃん期の今だからできること きいてみよう!やってみよう!」 10月～12月 8回 保育に関する研修会 ・子育て支援センターすがお 7月 1回
子育て支援啓発事業 (R6新設)	地域における身近な子育て関連情報の提供や、親子体操、フリートークなどを通して、保護者同士の交流を図り、子育て世代の仲間づくりを支援する。			実施なし	「児童室で遊ぼうDay」 奇数月の第2日曜 13時～16時 対象:未就学児とその保護者
市民学習・市民活動活性化学習事業					
市民自主学級	地域の課題等の解決のための学びを個人・グループが企画提案し市民館と協働で学級を企画運営します。	委託料 95,000	委託料 95,000	実施なし	読み聞かせボランティア講座(定員20人) 11月～12月 全5回 対象:おおむね50歳以上で関心のある方
市民自主企画事業	地域の特性に応じて、学習・文化・芸術の振興や市民の交流、ネットワーク化に向けて、多様な形態の事業を個人・グループが企画提案し市民館と協働で事業を企画運営します。	委託料 100,000	委託料 100,000	{誰でもわかるスマホ教室}(定員各回20人) 10/23 スマホの基本操作(18人) 10/28 LINEの使い方(20人) 11/6 メールの使い方(18人) 対象:初心者向け	「今と昔は違うよ!子供の発達知識を 3世代で学ぼう!」 9月8日 1回 対象:子どもの発達に不安がある保護者と子ども 10組、関心のある大人20人 「親切・丁寧なスマホ教室」(定員20人) 10月～11月 全3回 {親子で自然エネルギー工作を楽しもう}各回、 小学生と保護者18組) 7月28日、8月3日(菅生此文で開催)、11日、25日

事業名	事業内容	当初予算(円)		5年度事業内容	6年度事業計画
		R5	R6		
市民エンパワーメント研修	市民自らが考え生活・地域課題等に取り組むために市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供します。	報償費 77,000 消耗品 4,000 役務費 1,000	報償費 82,500 消耗品 3,000 役務費 1,000	{地域の大人が子どものためにできることを考える講座}（定員20人） 6/8（7人）、6/15（9人）、6/22（9人）、6/29（16人）、 7/6（18人）、7/13（10人） 9/14(6人)、12/14(4人)に同窓会開催 3/15（4人）夢パーク見学	「保育ボランティア入門講座」（定員20人） 6/4～7/2 火曜 10時～12時 全5回 申込者13人
生涯学習交流集会	市民主体の生涯学習・社会教育に向けて市民と職員が共に考えます。	消耗品 4,000 役務費 1,000	消耗品 2,000 役務費 1,000	市民自主学級・市民自主企画事業実施団体による成果報告と講話（宮前市民館と合同開催） 報告者：学級1組、企画事業3組 テーマ：「これからの市民活動について」 3/9 土曜 13:30～15:30 24人（定員30人）	3月実施予定
学習情報提供・学習相談事業	市民学習活動支援の一環として、様々な学習情報・市民活動情報を収集整理し、提供します。また、市民活動を支える市民相互援助システムづくりを図ります。	消耗品 4,000	消耗品 2,000	来館、電話などによる市民の相談に応じました。68件	来館、電話などによる市民の相談に応じます。
市民・行政協働・ネットワーク学習事業					
行政区・中学校区地域教育会議推進事業	家庭・学校・地域の連携により、区内の子育てや生涯学習ネットワーク、教育への市民参画システム作りを行い、地域の教育力の向上をめざします。			菅生中学校区地域教育会議の活動を支援しました（道親ネットワーク、情報委員会に参加）。	菅生中学校区地域教育会議の活動を支援します（道親ネットワーク、情報委員会に参加）。
課題別連携事業等	地域での子育てや福祉、環境、多文化共生などの課題に取り組むため、関係する市民や機関と連携した会議に参加するとともに、事業を協働で実施します。様々な手法による市民の主体的で自由な表現活動を振興し、地域に根ざした文化を創造します。 「おもちゃ病院」 壊れたおもちゃを直すことを通じて、物を大切に作る心を育むとともに、交流を図る。 「おしゃべりサロンすがお」 孤立しがちな人々が気軽なおしゃべりをできる場としてサロンを開催し、ふれあい・支えあいのできる地域づくりを目指す。	報償費 31,000 消耗品 8,000 役務費 1,000	報償費 22,500 消耗品 3,000 役務費 1,000	「おもちゃ病院」 奇数月の第2日曜開催 13時～16時 5/14（8件）、7/9（8件）、9/10（20件）、11/25（10件）、1/14（10件）、3/10（15件） 「おしゃべりサロンすがお」 毎月第4木曜（12月のみ第3木曜） 10時～11時30分 4/27(21人)、5/25(19人)、6/22(19人)、7/27(18人)、8/24(18人)、9/28(19人)、10/26(22人)、11/23(23人)、12/21(26人)、1/25(24人)	「おもちゃ病院」 奇数月の第2日曜開催 13時～16時 「おしゃべりサロンすがお」 毎月第4木曜（12月のみ第3木曜） 10時～11時30分
現代的課題対応学習事業					
現代的課題学習事業	現代的、今日的な課題に係わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援します。	報償費 16,000 消耗品 4,000 役務費 1,000	報償費 22,000 消耗品 3,000 役務費 1,000	菅生の現代史 菅生100年のあゆみ（定員20人） 11/18 100年前の菅生の様子（25人） 12/2 第二次世界大戦前後の様子（26人） 12/16 戦後からの住宅開発の様子。 町内会・自治会などの地域コミュニティの現状と魅力（21人） 大人だって絵本を楽しむ会（定員20人） 1/20(17人)	（仮称）スマホ広場【検討中】
教育文化会館・市民館学習環境整備事業					
刊行・広報活動	学習記録や調査研究書の作成、館のたよりやホームページなどにより、学習情報の蓄積、公開を図ります。	消耗品 49,000 役務費 8,000	消耗品 49,000 役務費 8,000	分館だより年7回 各回2,800部発行 公共施設への配架及び近隣町会へ回覧を依頼 ホームページ随時更新	分館だより年7回 各回2,800部発行 公共施設への配架及び近隣町会へ回覧を依頼 ホームページ随時更新
その他		食糧費 2,000 備品購入費 37,000	食糧費 2,000 備品購入費 37,000	食糧費 講師用 飲料水 備品購入費 Zoomライセンス	食糧費 講師用 飲料水 備品購入費 Zoomライセンス
社会教育振興事業 予算額	報償費	321,000	335,000		
	消耗品費	85,000	71,000		
	食糧費	2,000	2,000		
	印刷製本費	0	0		
	役務費	15,000	15,000		
	委託料	195,000	195,000		
	備品購入費	37,000	37,000		
	合計額	655,000	655,000		

VII 1 川崎市社会教育委員会 教育文化会館・市民館専門部会

(◎は会長、○は副会長)

館名	氏名	所属	区分	諮問・研究課題	開催月日
教育文化会館	◎ 山澤 和一 子	日本女子大学 客員准教授	4	川崎区におけるシニア事業について	6・18
	○ 山村 本洋 子	教文サークル連絡会 会長	2		
	山本 泉田 政徳 子	川崎市地域女性連絡協議会 理事	2		9・26
	和平 川悦 子	川崎高等学校附属中学校 校長	1		
	飯塚 昭子 子	川崎区文化協会 事務局長	2		12・5
	中嶋 由利 子	川崎区PTA協議会 会長	2		2・23
幸市民館	◎ 大塚 謙一 郎	幸区地域教育会議 議長	2	地域につながる市民館・分館～出会い、生きがい、拡がり求めて～	6・29
	○ 大井 岡了 子	明治大学 兼任講師	4		
	平井 育子 子	西御幸小学校 校長	1		9・5
	伊藤 俊州 子	女衾神社幼稚園 主事	5		
	酒井 清貴 子	幸区文化協会 監査	2		12・13
	中島 由秀 子	公募委員	3		
中原市民館	◎ 矢木 秀男 紀	幸サークル連絡会 会長	2	中原市民館における多世代交流に向けた事業の実施について	2・8
	○ 山田 雅太 子	幸区PTA協議会 副会長	2		
	山本 順太郎 子	かわさき子どもの権利フォーラム 代表	4		6・10
	中原 義郎 子	中原市民館サークル連絡会 庶務担当	2		
	中川 明美 子	井田小学校 校長	1		9・11
	梶川 美子 子	中原区文化協会 理事	2		
高津市民館	◎ 松倉 キミ 子	中原区町内会連絡協議会今井上町町内会 会長	2	「外国につながる子どもの学習支援のあり方について」～多文化共生社会に向けた「多文化子ども塾」の取り組み～	12・5
	○ 滝沢 甲子 子	中原区子ども会連合会副会長・事務局長	2		
	福井 巖香 子	市民委員	3		2・23
	◎ 迎スミ子 子	元中原区PTA協議会 副会長	5		
	○ 山本 多央 子	前川崎市男女共同参画センター 館長	4		4・17
	齋野 保史 子	高津区PTA協議会 会計監査	5		
宮前市民館	◎ 田村 富彦 子	川崎市立東高津小学校 校長	1	都市型市民館のあり方について	10・30
	○ 角田 仁子 子	高津区文化協会 理事・事務局長	2		
	松崎 キヨエ 子	高津区地域教育会議 議長	2		12・20
	笹子 まさえ 子	高津区全町内会連合会 理事	2		
	遠藤 昌宏 子	特定非営利活動法人アクト川崎 事務局長	2		2・8
	仙北 谷力 子	下作延小学校PTA 会長	2		
多摩市民館	◎ 川西 和子 子	公募委員	3	市民館と地域の拠点（こども文化センター、老人いこいの家）との協働	6・12
	○ 井上 陽政 子	調査モデレーター・分析・各種司会	4		
	江幡 政吉 子	菅生分館利用者懇談会 代表	2		7・3
	近江 弓子 子	菅生分館利用者懇談会 代表	2		10・3
	大津 三郎 子	宮前区民生委員児童委員協議会 会計	2		12・20
	尾崎 陽子 子	公募委員	3		2・16
麻生市民館	◎ 中村 布佐 子	菅生ヶ丘自治会 自治会長	2	地域コミュニティ活性化支援に向けた検討	6・11
	○ 金田 玉恵 子	宮前区PTA協議会 元副会長	5		
	大下 勝巳 子	宮前区文化協会 副会長	2		9・10
	小澤 章子 子	菅生小学校 校長	1		12・10
	山崎 恵子 子	多摩区PTA協議会 副会長	2		2・23
	倉本 明潤 子	多摩区社会福祉協議会 副会長	3		

※区分 1：区内に設置された学校の長 2：区内の社会教育団体から推薦された者
 3：区内在住の社会教育に関する経験を有する市民 4：学識経験者
 5：区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者
 (川崎市社会教育委員会規則 第6条別表による)

VII 1 川崎市社会教育委員会 教育文化会館・市民館専門部会

(◎は会長、○は副会長)

館名	氏名	所 属	区分	研究課題	開催月日
教育文化会館	◎ 山澤 和一 子	元日本女子大学 客員准教授	4	施設を有効活用した居心地の良いフリースペースの設置	6月16日
	○ 村社 延子	教文サークル連絡会 会長	2		9月24日
	今野 直樹	川崎市地域女性連絡協議会 会計	2		12月3日
	永平 悦子	川崎市立富士見中学校 校長	1		2月20日
	坂田 紀子	川崎区文化協会 事務局長	2		
幸市民館	◎ 館 勇 紀	幸区PTA協議会 副会長	2	「人とのつながり」 「SNSを活用した情報発信」	6月26日
	○ 伊藤 俊 州	女躰神社幼稚園 主事	5		9月3日
	片岡 了 郎	明治大学 兼任講師	4		12月11日
	大塚 謙一	幸区地域教育会議 議長	2		2月13日
	平井 育子	西御幸小学校 校長	1		
中原市民館	◎ 山田 雅 太	かわさき子どもの権利フォーラム 代表	4	地域を子どもと一緒に学ぶ中原市民館	7月19日
	○ 日吉 のぞみ	中原区PTA協議会 副会長	5		9月24日
	森脇 晃司	下河原小学校 校長	1		12月15日
	梶川 明美	中原区文化協会 理事	2		2月23日
	山本 順子	中原市民館サークル連絡会 庶務担当	2		
高津市民館	◎ 迎角 スミ子	前川崎市男女共同参画センター 館長	4	高津市民館にいこう ～学びと交流の拠点～	7月8日
	○ 田 仁 史	高津区地域教育会議 議長	2		10月27日
	齋野 保富	川崎市立東高津小学校 校長	1		12月8日
	田村 彦彦	高津区文化協会 理事・事務局長	2		2月13日
	小菅 徹哉	高津区PTA連絡協議会 副会長	2		
宮前市民館	◎ 川西 和 子	調査モデレーター・分析・各種司会	4	人と人をつなぐ市民館	7月7日
	○ 杉田 懇 生	菅生分館利用者懇談会 前代表	2		9月15日
	山本 良子	宮前第4地区民生委員児童委員協議会 会長	2		12月8日
	近江 弓子	公募委員	3		2月21日
	川田 和子	宮前区全町内自治会連合会 副会長	2		
多摩市民館	◎ 大小 勝 巳	NPOかわさき創造プロジェクト 理事	4	市民館と地域の連携 (市民館の認知度向上と地域資源の活用に向けて)	6月24日
	○ 澤 章 子	たま学習サークル連絡会 会長	2		9月30日
	千野 隆之	下布田小学校 校長	1		12月17日
	近藤 清潤	多摩区町会連合会 常任理事	2		2月21日
	齊藤 紀代子	多摩区地域教育会議 副議長	2		
麻生市民館	◎ 井上 俊 夫	麻生区地域教育会議 議長	2	(仮) 10年後の麻生市民館に求められる姿	10月30日
	○ 橋本 浩 之	麻生区文化協会 役員	2		12月22日
	山本 慶子	王禅寺中央中学校 校長	1		2月21日
	高橋 正 男	麻生区町会連合会 副会長	2		
	杉森 由加利	麻生市民館サークル連絡会 会長	2		

※区分 1：区内に設置された学校の長 2：区内の社会教育団体から推薦された者
 3：区内在住の社会教育に関する経験を有する市民 4：学識経験者
 5：区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者
 (川崎市社会教育委員会規則 第6条別表による) "

Ⅶ 1 川崎市社会教育委員会 教育文化会館・市民館専門部会

(◎は会長、○は副会長)

館名	氏名	所 属	区分	研究課題	開催月日
教育文化会館	◎ 山 澤 和 子	元・日本女子大学 客員准教授	4	施設を有効活用した居心地の良いフリースペースの設置	6月 22日
	○ 村 社 一 夫	教文サークル連絡会 会長	2		
	今 延 子	川崎市地域女性連絡協議会 会計	2		10月 15日
	植 村 裕 之	川崎高等学校附属中学校 校長	1		
	平 川 悦 子	川崎区文化協会 事務局長	2		12月 7日
幸市民館	坂 田 友 紀	川崎区PTA協議会 顧問	2	夢を実現する街 さいわい区を目指して	
	野 口 恵 子	川崎区地域教育会議 事務局	2		2月 20日
	杉 山 麻 由 美	公募委員	3		
	◎ 館 勇 紀	川崎市PTA連絡協議会 会長	2		7月 16日
	○ 伊 藤 俊 州	女体神社幼稚園 主事	5		
中原市民館	片 岡 了 郎	明治大学 兼任講師	4	地域を子どもと一緒に学 ぶ中原市民館	9月 30日
	大 塚 謙 一	幸区地域教育会議 議長	2		
	平 井 育 子	西御幸小学校 校長	1		12月 7日
	松 井 節 子	幸区文化協会 評議員	2		
	中 川 文 恵	公募委員	3		2月 13日
高津市民館	◎ 山 田 雅 太	かわさき子どもの権利フォーラム 代表	4	高津市民館にこう ～学びと交流の拠点～	6月 11日
	○ 日 吉 のぞみ	中原区PTA協議会 副会長	5		
	高 嶋 幸 広	荻宿小学校 校長	1		9月 2日
	梶 川 明 美	中原区文化協会 理事	2		
	山 本 順 子	中原市民館サークル連絡会 庶務担当	2		12月 10日
宮前市民館	◎ 迎 角 スミ子	元・男女共同参画センター 館長	4	人と人をつなぐ市民館	5月 7日
	○ 渡 田 伸 一	高津区地域教育会議 議長	2		
	田 部 村 富 彦	東高津小学校 校長	1		12月 17日
	松 崎 キョエ	高津区文化協会 理事・事務局長	2		
	笹 子 まさえ	高津区全町内会連合会 理事	2		2月 12日
多摩市民館	◎ 仙北 雅 浩	(特非)アクト川崎 事務局長	2	生涯学習活動の案内機能 のあり方について	
	森 雅 浩	公募委員	3		
	◎ 川 西 和 子	高津区PTA連絡協議会	5		
	○ 杉 田 渾 生	調査モデレーター・分析・各種司会	4		7月 8日
	山 本 良 子	営生分館利用者懇談会 前代表	2		
麻生市民館	◎ 近 江 弓 子	宮前第4地区民生委員児童委員協議会 会長	2	生涯学習活動の案内機能 のあり方について	10月 13日
	川 田 和 子	公募委員	3		
	上 村 和 弘	宮前区全町内自治会連合会 副会長	2		12月 24日
	中 村 布 佐	宮前区PTA協議会 会長	5		
	吉 野 晶 子	宮前区文化協会 副会長	2		2月 20日
多摩市民館	◎ 大 下 勝 巳	土橋小学校 校長	1	生涯学習活動の案内機能 のあり方について	
	○ 小 澤 章 子	NPO法人かわさき創造プロジェクト理事	4		6月 17日
	小 澤 洋 一	たま学習サークル連絡会 会長	2		
	近 藤 清 潤	南生田小学校 校長	1		9月 30日
	齊 藤 潤 子	多摩区町会連合会 常任理事	2		
麻生市民館	◎ 吉 田 紀 代	多摩区地域教育会議 副議長	2	生涯学習活動の案内機能 のあり方について	12月 7日
	吉 田 幸 子	多摩区社会福祉協議会 会長	2		
	金 丸 照 光	市民委員	3		2月 26日
	◎ 井 上 俊 夫	多摩区PTA協議会 会長	5		
	○ 橋 本 浩 之	麻生区地域教育会議 議長	2		9月 28日
麻生市民館	山 本 浩 之	麻生区文化協会 役員	2	生涯学習活動の案内機能 のあり方について	
	高 橋 慶 子	王禅寺中央中学校 校長	1		10月 28日
	菅 原 陽 子	麻生区町会連合会 理事	2		
	三 上 由 加利	麻生市民館サークル連絡会 会長	2		1月 19日
	角 田 季 美	公募委員	3		
麻生市民館	◎ 田 澤 梓	和光大学 非常勤講師	4	生涯学習活動の案内機能 のあり方について	2月 19日
	○ 田 澤 梓	麻生区PTA協議会 副会長	5		

※区分 1：区内に設置された学校の長 2：区内の社会教育団体から推薦された者
 3：区内在住の社会教育に関する経験を有する市民 4：学識経験者
 5：区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者
 (川崎市社会教育委員会議規則 第6条別表による)

VII 1 川崎市社会教育委員会議 教育文化会館・市民館専門部会

(◎は会長、○は副会長)

館名	氏名	所 属	区分	研究課題	開催月日
教育文化会館	◎ 山村 澤和子	元日本女子大学 客員准教授	4	施設を有効活用した居心地の良いオープンスペースの設置	6月17日
	○ 井野直樹	教文サークル連絡会 会長	2		
	石井 一洋	川崎市地域女性連絡協議会 理事	2		9月27日
	永権 キヨ子	川崎市立富士見中学校 校長	1		12月16日
	箕輪 佳世	川崎区文化協会 副部会長	2		
幸市民館	○ 山口 恵子	川崎区PTA協議会 副会長	5	区民と市民館との協働	2月19日
	杉山 麻由美	川崎区地域教育会議 事務局長	2		
	浦松 利博	公募委員	3		
	山井 節子	幸区PTA連絡協議会 会長	2		6月26日
	平井 育子	幸区文化協会 評議員	2		
中原市民館	○ 梅原 七重	西御幸小学校 校長	1	ふらっと立ち寄れる市民館	9月12日
	大塚 謙一郎	幸サークル連絡会 会計	2		12月21日
	夏井 美幸	幸区地域教育会議 議長	2		
	片岡 了孝	公募委員	3		
	小泉 愉孝	明治大学 兼任講師	4		2月5日
高津市民館	○ 鈴木 保子	鹿島田幼稚園 園長	5	学びとにぎわいのある市民館を目指して～市民と共に市民活動の再開と活性化を進める市民館～	8月3日
	木地 美和子	市民委員	3		
	川道 明美	下河原小学校 校長	1		10月18日
	中野 弥生	中原区文化協会 理事	2		
	但野 文子	中原市民館サークル連絡会 会計	2		12月12日
宮前市民館	○ 滝沢 甲子男	中原区地域教育会議 副議長	2	地域活動を区民に周知してもらおう広報の在り方	
	木村 利恵	中原区子ども会連合会 副会長 兼 事務局長	2		
	日吉 のぞみ	明治大学 兼任講師	4		2月5日
	迎角 スミ子	中原区PTA協議会	5		
	田部 伸一	元川崎市男女共同参画センター 館長	4		6月23日
多摩市民館	○ 渡部 富彦	高津区地域教育会議 議長	2	(仮)区内全域をフィールドとした社会教育の振興を目指して	10月14日
	松崎 キヨエ	川崎市立東高津小学校 校長	1		
	志北 里恵	高津区文化協会 事務局長	2		12月9日
	仙谷 努介	高津区全町内会連合会 理事	2		
	佐藤 恵介	(特非)アクト川崎 理事	2		2月25日
麻生市民館	○ 川山 和子	公募委員	3	麻生文化センター中庭スペースの有効活用について	
	西本 良子	高津区PTA協議会 副会長	5		
	渡辺 美代子	調査モデレーター・分析・各種司会	4		6月28日
	山本 太三	宮前第4地区民生委員児童委員協議会 会長	2		
	高橋 久実	宮前区文化協会 会計	2		9月21日
麻生市民館	○ 丸尾 光明	菅生分館利用者懇談会	2	多摩区社会福祉協議会 会長	12月13日
	當間 幸江	宮前区全町内自治会連合会 理事	3		
	吉高 紀子	公募委員	4		2月19日
	小澤 章子	西有馬小学校 校長	1		
	小齊 洋一	宮前区PTA協議会 副会長	5		
麻生市民館	○ 藤山 福吉	多摩区PTA協議会 書記	5	多摩区文化協会 副会長	
	三品 美理	多摩区地域教育会議 副議長	2		6月17日
	園田 美理	生田地区町会連合会 理事	2		9月12日
	井上 俊夫	市民委員	3		12月16日
	横山 博之	多摩区PTA協議会 書記	5		2月26日
麻生市民館	○ 菅原 陽子	麻生区地域教育会議 議長	2	麻生文化センター中庭スペースの有効活用について	8月18日
	松島 糾之	麻生区文化協会 副会長	2		
	徳富 美恵	王禅寺中央中学校 校長	1		1月24日
	三角 由加利	麻生市民館サークル連絡会 会長	2		
	田澤 梓	麻生区町会連合会 理事	2		2月12日

※区分 1:区内に設置された学校の長 2:区内の社会教育団体から推薦された者
 3:区内在住の社会教育に関する経験を有する市民 4:学識経験者 5:区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者
 (川崎市社会教育委員会規則 第6条別表による)

VII 1 川崎市社会教育委員会 教育文化会館・市民館専門部会

(◎は会長、○は副会長)

館名	氏名	所 属	区分	研究課題	開催月日
教育文化会館	◎ 山 澤 和 子	元日本女子大学 客員准教授	4	施設を有効活用した居心地の良いオープンスペースの設置	6月16日
	○ 村 社 一 夫	教文サークル連絡会 会長	2		
	石 井 洋 子	川崎市地域女性連絡協議会 理事	2		9月14日
	藤 守 利 行	川崎市立富士見中学校 校長	1		
	権 キ ヨ 子	川崎区文化協会 副部長	2		12月19日
幸市民館	箕 輪 佳 世	川崎区PTA協議会 副会長	5	区民と市民館との協働	
	野 口 恵 子	川崎市地域教育会議 事務局長	2		2月18日
	杉 山 麻 由 美	市民委員	3		
	◎ 浦 山 利 博	川崎市PTA連絡協議会 会長	2		6月29日
	○ 松 井 節 子	幸区文化協会 監査	2		
中原市民館	柴 田 薫 重	西御幸小学校 校長	1	ふらっと立ち寄れる市民館	9月25日
	梅 原 七 重	幸サークル連絡会 会計	2		
	大 塚 謙 一 郎	幸区地域教育会議 議長	2		12月11日
	夏 井 美 幸	公募委員	3		
	片 岡 了 孝	明治大学 兼任講師	4		2月18日
高津市民館	小 泉 愉 孝	鹿島田幼稚園 園長	5	学びとにぎわいのある市民館を目指して～市民と共に市民活動の再開と活性化を進める市民館～	
	◎ 鈴 木 保 子	市民委員	3		6月23日
	○ 菊 地 美 和 子	下河原小学校校長	1		
	梶 川 明 美 生	中原区文化協会理事	2		8月1日
	中 道 弥 生 子	中原市民館サークル連絡会会計	2		
宮前市民館	但 野 文 子	中原区地域教育会議 副議長	2	地域活動を区民に周知してもらおう広報の在り方	12月15日
	滝 沢 甲 子 男	中原区子ども会連合会 副会長兼事務局長	2		
	木 村 利 恵 子	明治大学兼任講師	4		2月17日
	日 吉 のぞみ	中原区PTA協議会	5		
	◎ 迎 角 スミ 子	元川崎市男女共同参画センター 館長	4	学びとにぎわいのある市民館を目指して～市民と共に市民活動の再開と活性化を進める市民館～	6月23日
多摩市民館	○ 渡 田 伸 一 彦	高津区地域教育会議 議長	2		
	田 村 富 彦	東高津小学校 校長	1		10月17日
	松 崎 キ ヨ エ	高津区文化協会 事務局長	2		
	志 水 里 恵 力	高津区全町内会連合会 理事	2		12月5日
	仙 北 谷 里 恵 力	(特非) アクト川崎 理事	2		
麻生市民館	川 西 和 子	調査モデレーター・分析・各種司会	4	市民館の利用促進に向けた取り組みについて	2月24日
	○ 山 本 良 子	宮前第4地区民生委員児童委員協議会 会長	2		
	渡 辺 美 代 子	宮前区文化協会 会計	2		7月14日
	山 本 太 三 雄	菅生分館利用者懇談会	2		9月20日
	高 久 光 雄	宮前区全町内自治会連合会 理事	2		12月6日
多摩市民館	丸 尾 明 彦	公募委員	3	区内全域への社会教育アプローチ強化について～アウトリーチ・モデルの実践を通して～	
	當 間 幸 江	西有馬小学校 校長	1		2月18日
	◎ 高 梨 宏 子	宮前区PTA協議会 副会長	5		
	○ 米 山 宏 福	東海大学 講師	4		7月24日
	羽 深 吉 東	生田地区町会連合会 理事	2		
多摩市民館	安 陪 修 司	南生田小学校 校長	1	市民館の利用促進に向けた取り組みについて	9月26日
	小 澤 章 子	多摩区社会福祉協議会 副会長	2		
	山 本 和 恵 子	たま学習サークル連絡会	2		12月12日
	三 品 美 理	多摩区地域教育会議 副議長	2		
	小 園 美 理	市民委員	3		2月18日
麻生市民館	◎ 井 上 俊 夫	多摩区PTA協議会 書記	5	市民館の利用促進に向けた取り組みについて	
	○ 横 川 博 行	麻生区地域教育会議 議長	2		5月17日
	山 本 浩 之 子	麻生区文化協会 副会長	2		
	菅 原 陽 子	王禅寺中央中学校 校長	1		8月2日
	徳 田 富 美 恵 梓	麻生市民館サークル連絡会 会長	2		
麻生市民館	角 澤 季 美 枝	公募委員	3	市民館の利用促進に向けた取り組みについて	10月11日
	角 南 ゆり 絵	公募委員	3		
		和光大学 非常勤講師	4		2月17日
		麻生区PTA協議会 副会長	5		

※区分 1：区内に設置された学校の長 2：区内の社会教育団体から推薦された者
 3：区内在住の社会教育に関する経験を有する市民 4：学識経験者 5：区内の家庭教育の向上に資する活動を行う者
 (川崎市社会教育委員会規則 第6条別表による)